

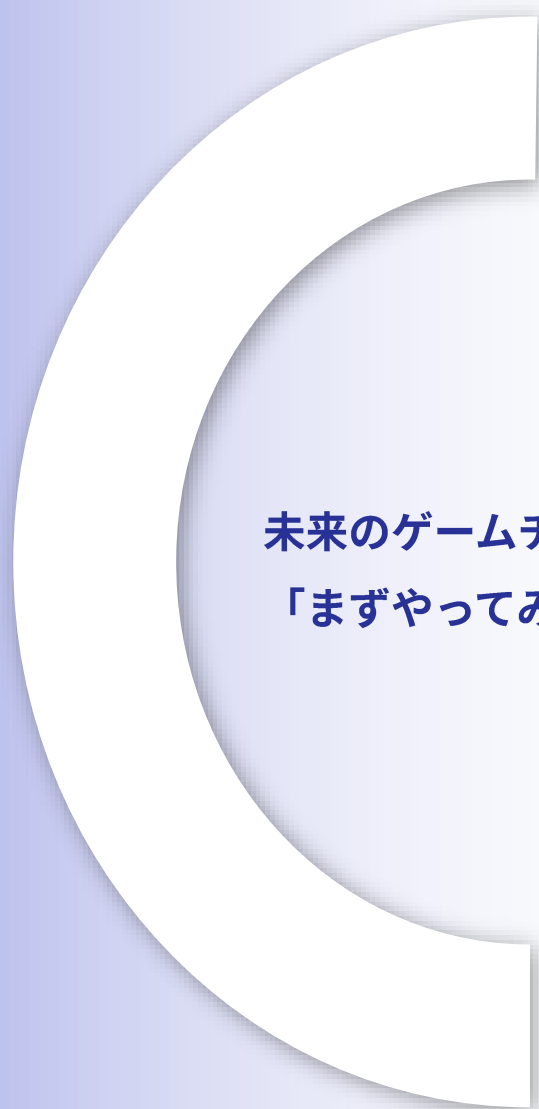


かっこ株式会社 | 証券コード:4166
2026年12月期 第2四半期
決算説明資料

FY2026 Second Quarter Financial Results

COPYRIGHT 2026 Cacco Inc.

2026年8月13日



未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに

目次

- 1 2026年12月期 第2四半期 業績
- 2 2026年12月期 通期 業績見通し
- 3 成長戦略
- 4 Appendix

COXIO

2026年12月期 第2四半期 業績

FY2026 Second Quarter Financial Results

プロダクトの付加価値向上

サービス拡充

4月

不正検知サービスを
「O-PLUX」へブランド統合

- 不正ログイン検知サービス「O-MOTION」を「O-PLUX Account Protection」へ名称変更し、国内シェアNo.1※の「O-PLUX」へブランド統合。EC領域で培った知見を融合し、金融機関の「口座開設・ログイン・取引」の一貫した不正対策を網羅的に支援。

不正検知サービス
O-PLUX

4月

「Mail Validator」が特許取得、
累計判定件数200万件突破

- メールアドレスの有効性を判定する独自アルゴリズム（特許第7840545号）が特許取得。金融・不動産・通信など多様な業界で導入が加速し、累計判定件数200万件を突破。

メールチェックサービス 
Mail Validator

2月

ECプラットフォーム「CS-Cart」と
「O-PLUX」が連携

- 世界5万件以上の採用実績を持つECプラットフォーム「CS-Cart」と「O-PLUX」が連携を開始。
- システム開発不要でクレジットカード不正利用対策を導入可能となり、幅広いEC事業者の安全な取引環境構築を支援。

 **cs cart**

事業領域の拡大

M&A

6月

株式会社Anycloudの完全子会社化

- AIシステム・アプリケーション受託開発、UXデザインを起点にプロダクトマネジメントから開発までを一気通貫で提供する株式会社Anycloudを完全子会社化。
- 当社の不正検知・データサイエンスの専門性と同社のAI開発力・FDE型の顧客密着型開発体制を融合し、①新規プロダクトの共同創出、②当社プロダクトのAI内製化・次世代化、③「O-PLUX」のAI×ルールベースによる不正検知高度化、④双方顧客基盤での相互送客、⑤AI人材の採用力強化を推進。

 **Anycloud**

4月

アドフラウド(広告不正クリック)対策サービス
「X-log」の提供開始

- アドフラウド対策サービス「X-log」を譲受・サービス提供開始。広告～決済まで一気通貫で不正対策が可能に。

 **X-log**
エックスログ

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

売上高は堅調に推移

FY26 2Q累計の売上高は455百万円となり、YoY（非連結）※1+11.9%。

主因は不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数の拡大。ストック性の高い不正検知サービス売上高は404百万円（YoY+22.5%）となり、全社売上高に占める構成比は88.7%。

営業赤字はM&A・事業譲受に伴う一過性費用を除くと前年同期から改善

FY26 2Q累計の営業利益は▲92百万円。M&A・事業譲受に伴う一過性費用37百万円を除くと▲55百万円、前年同期と同じ事業範囲に揃えた既存事業ベースでは▲46百万円と前年同期（▲65百万円）から19百万円改善。

不正検知サービスの導入が進捗、ストック収益が伸長

前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進した結果、EC・金融業界へ「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策サービス）の導入数が拡大。その結果、FY26 2Q累計のストック収益※2は385百万円（YoY+22.3%）、ストック収益比率は84.5%（YoY+7.2pt）と売上高の伸びを上回るペースでストック収益が伸長。

※1 当社は当第2四半期連結会計期間より中間連結財務諸表を作成（前年同期は当社単体の実績。決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudはみなし取得日2026年5月31日のため貸借対照表のみを連結しており、損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

※2 ストック収益＝不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）、アドフraud対策サービス「X-log」を含む。SaaS型BNPLシステム売上を除く。

2026年12月期 第2四半期 | 業績数値サマリ

FY26 2Q累計
売上高

455百万円

YoY +11.9%
計画達成率 50.6%

FY26 2Q累計
営業利益

▲92百万円

YoY - %※1
計画達成率 - %

FY26 2Q累計
経常利益

▲93百万円

YoY - %※1
計画達成率 - %

FY26 2Q累計
不正検知サービスのストック収益※2

385百万円

YoY +22.3%

FY26 2Q累計売上高に占める
不正検知サービスのストック収益比率

84.5%

YoY +7.2pt

FY26 2Q累計
不正検知サービス「O-PLUX」解約率

0.40%

YoY +0.01pt

※1 営業利益、経常利益のYoY・計画達成率の表記は、株式会社東京証券取引所の決算短信の表記基準にならい「-」としています。

※2 不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）、アドフラウド対策サービス「X-log」を含む。SaaS型BNPLシステム売上を除く。

売上高

455 百万円 (YoY +11.9%)
(計画達成率 50.6%)

営業利益

▲92 百万円 (YoY - %)
(計画達成率 - %)

経常利益

▲93 百万円 (YoY - %)
(計画達成率 - %)

(金額単位：百万円)

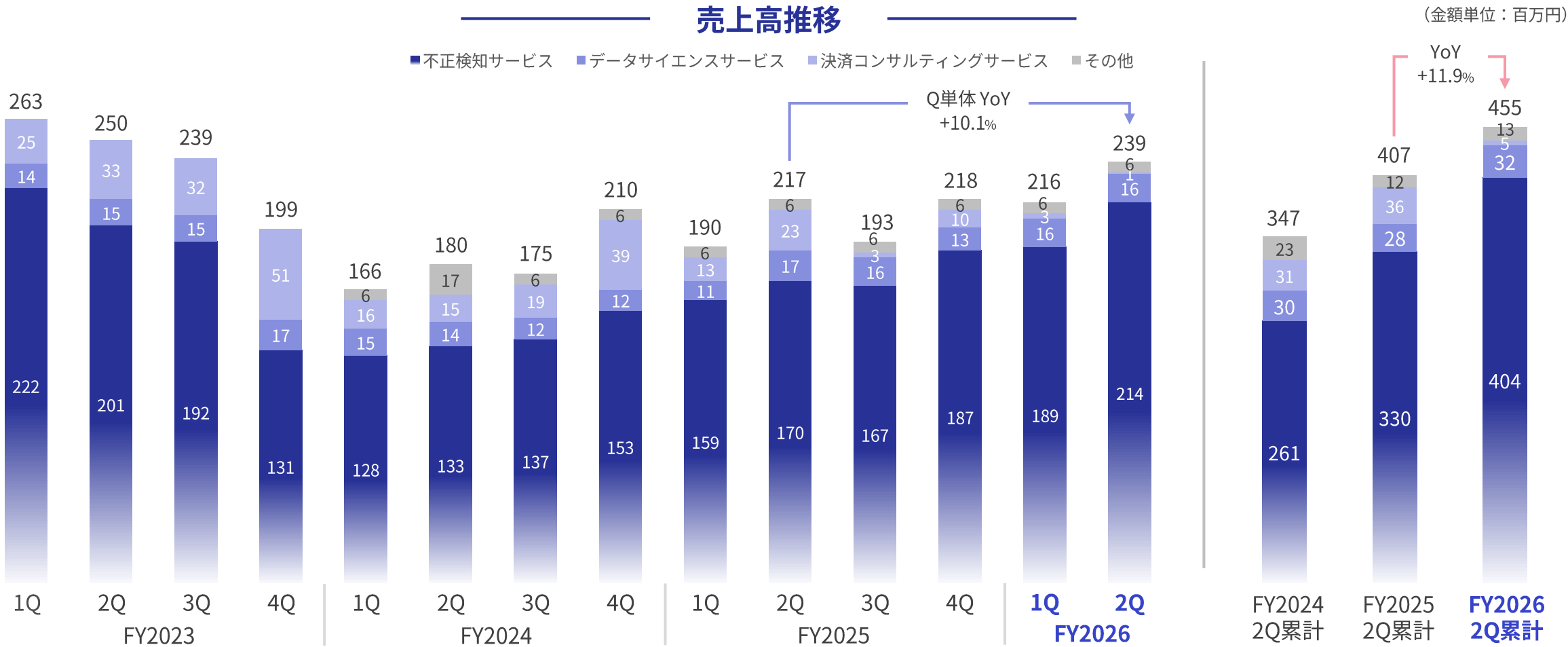
	FY2023 2Q累計	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	FY2026 2Q累計	YoY 増減	FY2026 計画	計画 達成率
売上高	513	347	407	455	+11.9%	900	50.6%
(不正検知サービス売上高)	423	261	330	404	+22.5%	801	50.5%
営業利益	17	▲148	▲65	▲92	-	▲112	-
(営業利益率)	3.5%	▲42.6%	▲16.0%	▲20.4%	-	▲12.5%	-
経常利益	17	▲148	▲64	▲93	-	▲116	-
(経常利益率)	3.4%	▲42.7%	▲15.8%	▲20.6%	-	▲13.0%	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	10	▲148	▲64	▲107	-	▲117	-

※1当社は当第2四半期連結会計期間より中間連結財務諸表を作成（前年同期は当社単体の実績。決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anyccloudはみなし取得日2026年5月31日のため貸借対照表のみを連結しており、損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

※2 営業損益、経常損益のYoY・計画達成率の表記は、株式会社東京証券取引所の決算短信の表記基準にならい「-」としています。

FY26 2Q累計売上高は455百万円（YoY +11.9%）、計画達成率50.6 %で着地。

- 主因は不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数の拡大。アドフラウド対策サービス「X-log」の取得も寄与。

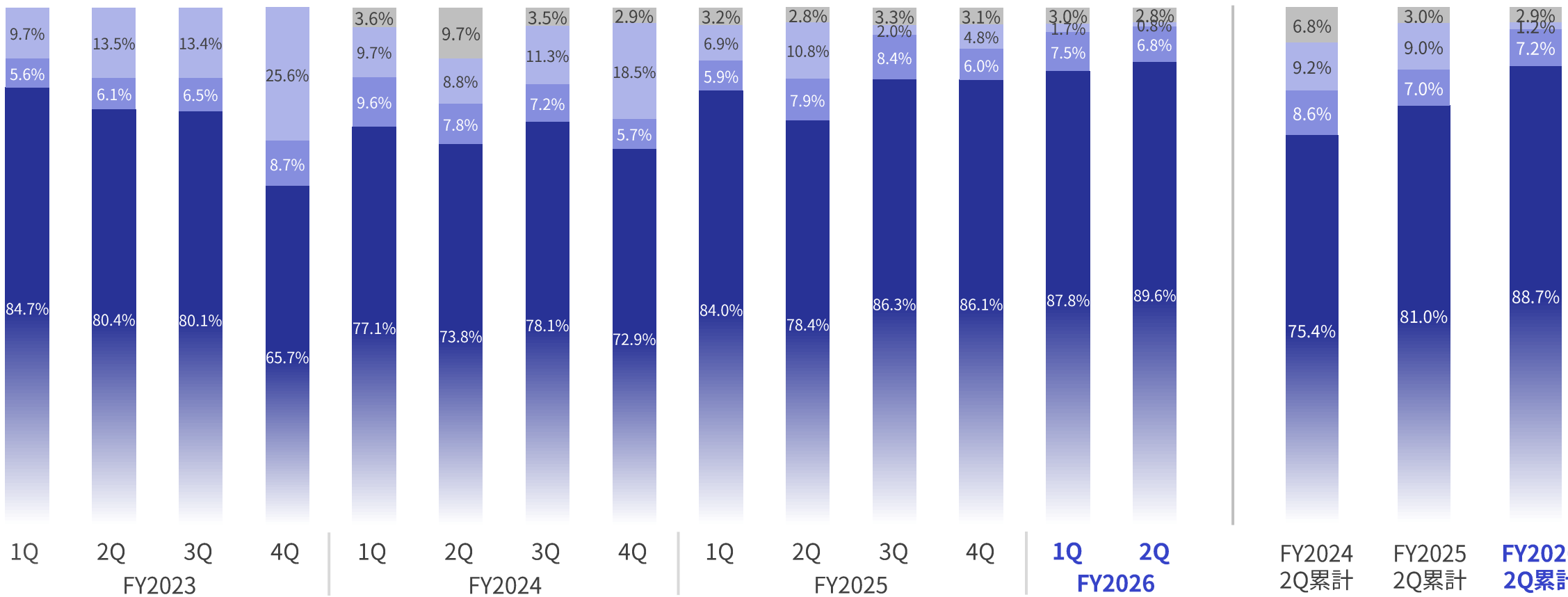


※ 不正検知サービス=不正検知サービス「O-PLUX」、アドフラウド対策サービス「X-log」。
※ その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上。

ストック性の高い主力サービスである不正検知サービスのFY26 2Q累計売上高構成比は88.7%（YoY +7.7pt）で着地。

サービス別売上高構成比推移

■不正検知サービス ■データサイエンスサービス ■決済コンサルティングサービス ■その他

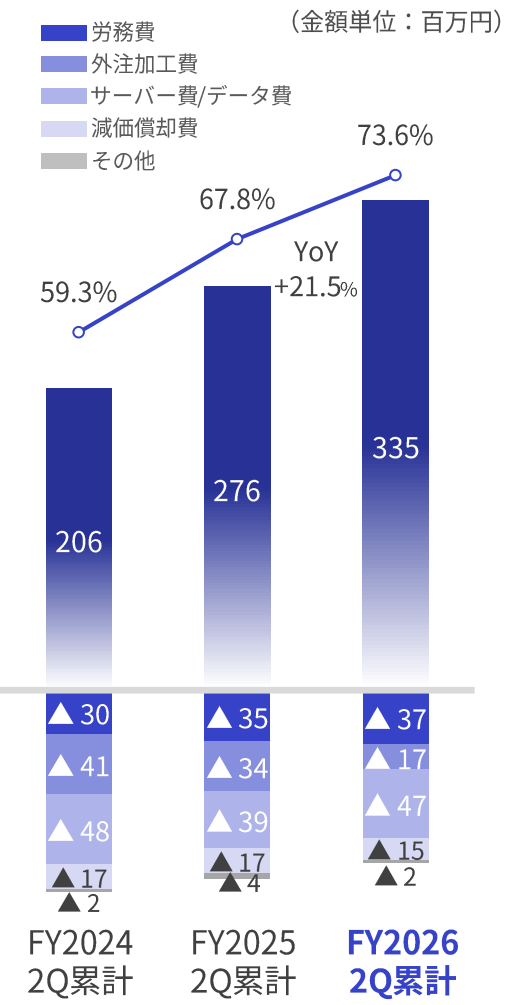
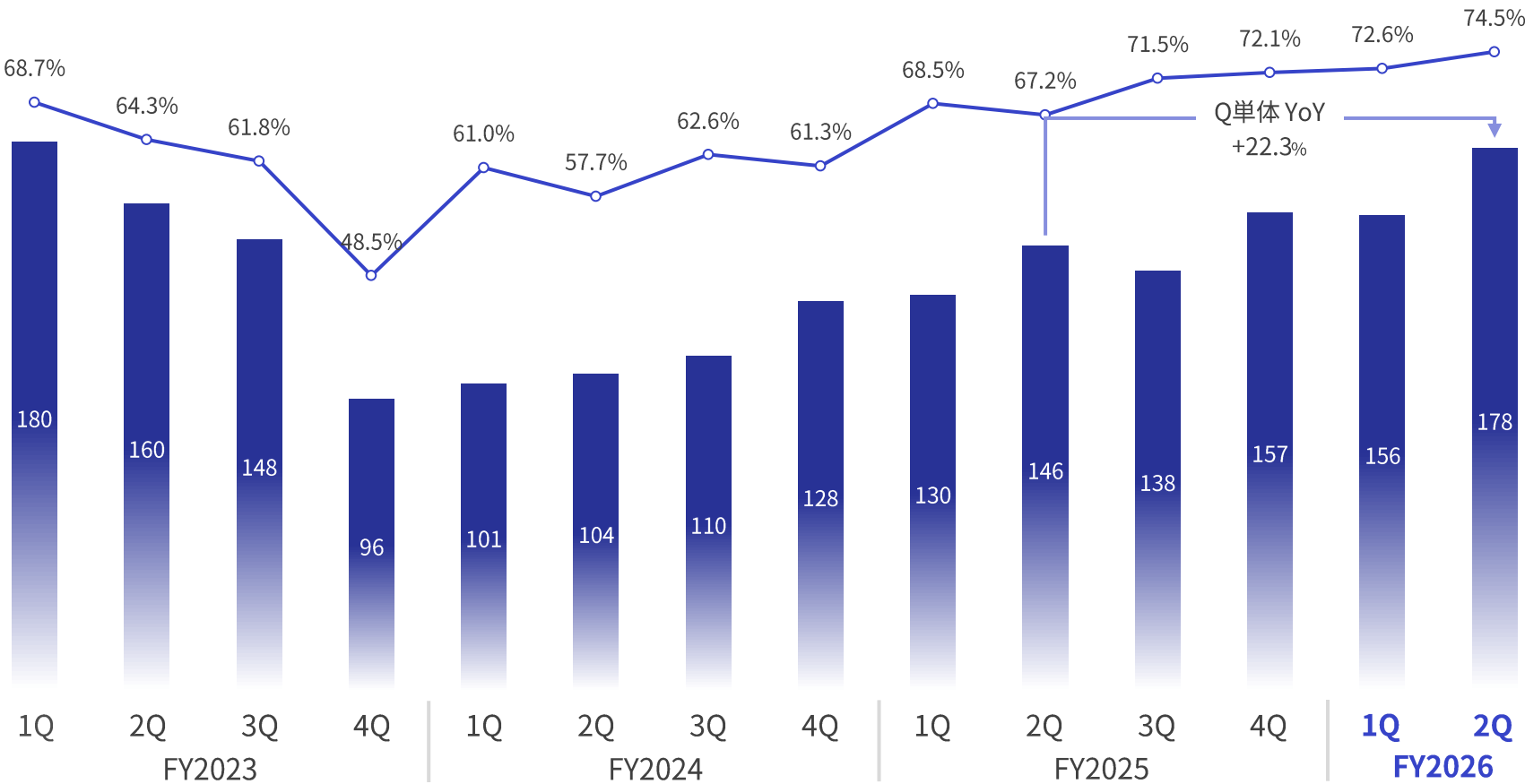


※ 不正検知サービス=不正検知サービス「O-PLUX」、アド Fraud 対策サービス「X-log」。
※ その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上。

FY26 2Q累計売上総利益は335百万円（YoY +21.5%）、売上総利益率は73.6%（YoY +5.8pt）で着地。
- 売上高の増加に加え、サーバー費等の増加を外注加工費の減少（▲17.6百万円）が上回り、売上原価は前年同期比8.4%減少。

売上総利益推移

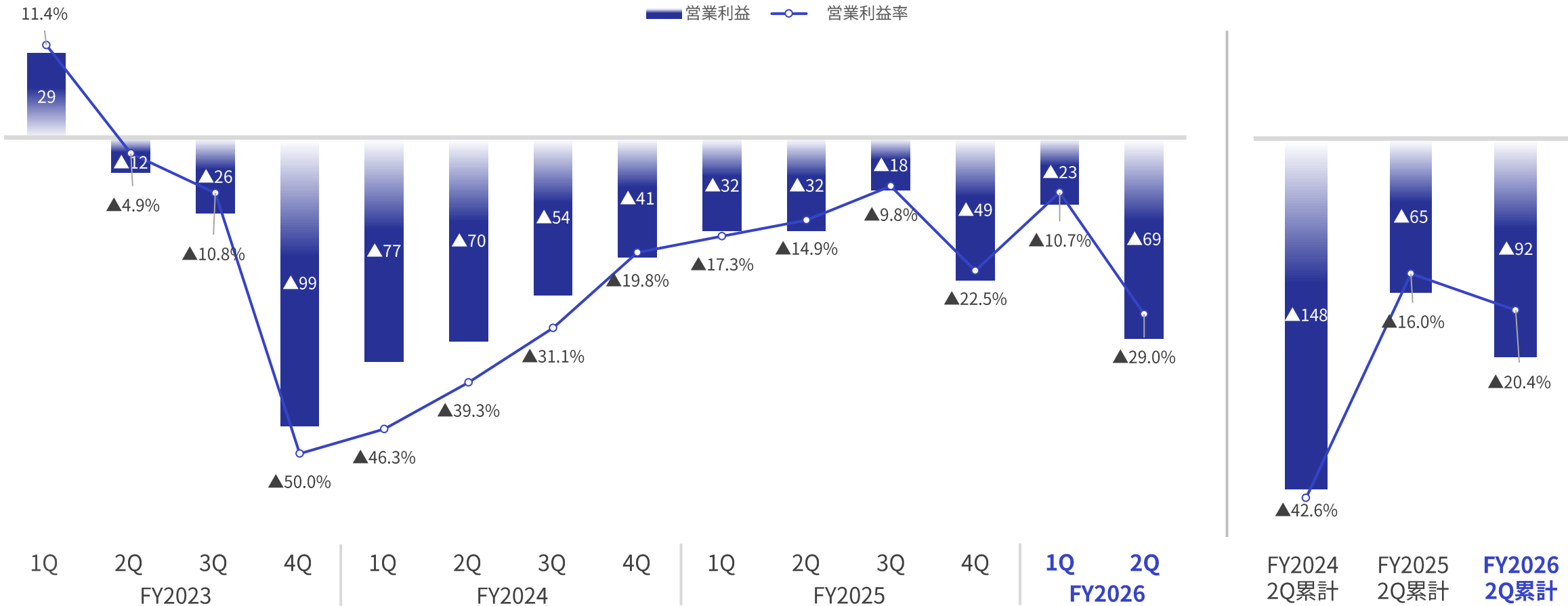
■ 売上総利益 ○ 売上総利益率



FY26 2Q累計営業利益は▲92百万円、営業利益率は▲20.4%（YoY ▲4.3pt）で着地。
- M&A・事業譲受に伴う一過性費用37百万円を除くと▲55百万円、既存事業ベースでは▲46百万円と前年同期（▲65百万円）から19百万円改善

営業利益の推移

（金額単位：百万円）



※ 当社は当第2四半期連結会計期間より中間連結財務諸表を作成（前年同期は当社単体の実績。決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudはみなし取得日2026年5月31日のため貸借対照表のみを連結しており、損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

※ M&A・事業譲受に伴う一過性費用37百万円＝株式会社Anycloud株式取得関連費用28百万円＋X-log事業譲受関連費用等。「既存事業ベース」は前年同期と同じ事業範囲に揃えた参考値です。

M&A・事業譲受に伴う一過性費用を除く調整後営業利益は▲55百万円、既存事業ベースでは▲46百万円。
- 前年同期営業利益（▲65百万円）から、それぞれ調整後営業利益は9百万円改善・既存事業ベースでは19百万円改善

調整プロセス

調整前

営業利益 ▲92百万円

営業利益率 ▲20.4%

+ M&A・事業譲受に伴う一過性費用 +37百万円

株式会社Anycloud取得関連 29百万円（仲介手数料・アドバイザー報酬）
アドフラウド対策事業取得関連 8百万円（仲介手数料・アドバイザー報酬）

① 調整後営業利益 ▲55百万円

営業利益率 ▲12.2%

+ アドフラウド対策事業の営業利益を除外 +9百万円

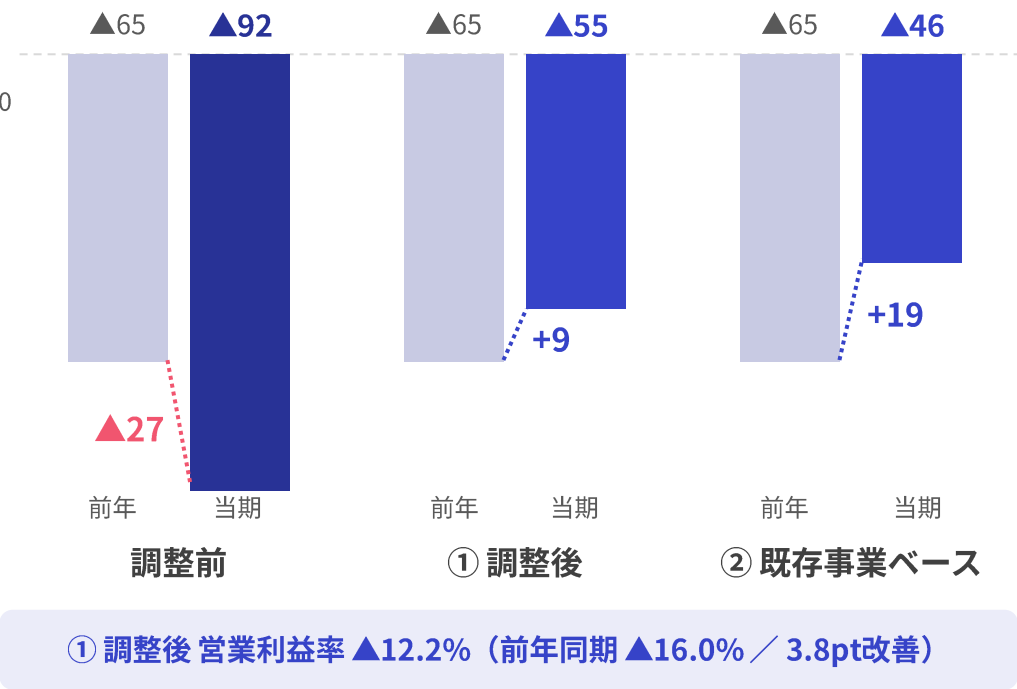
同事業の上期業績は売上6百万円・営業利益▲9百万円。譲受直後の立ち上げ期にあり先行投資が発生。
2026年4月譲受のため前年同期に存在せず比較可能性を確保するための調整。

② 既存事業ベース ▲46百万円

営業利益率 ▲10.3%

既存事業ベース＝ 前年同期と同じ事業範囲に揃えたベース

前年同期営業利益との対比 (金額単位：百万円)



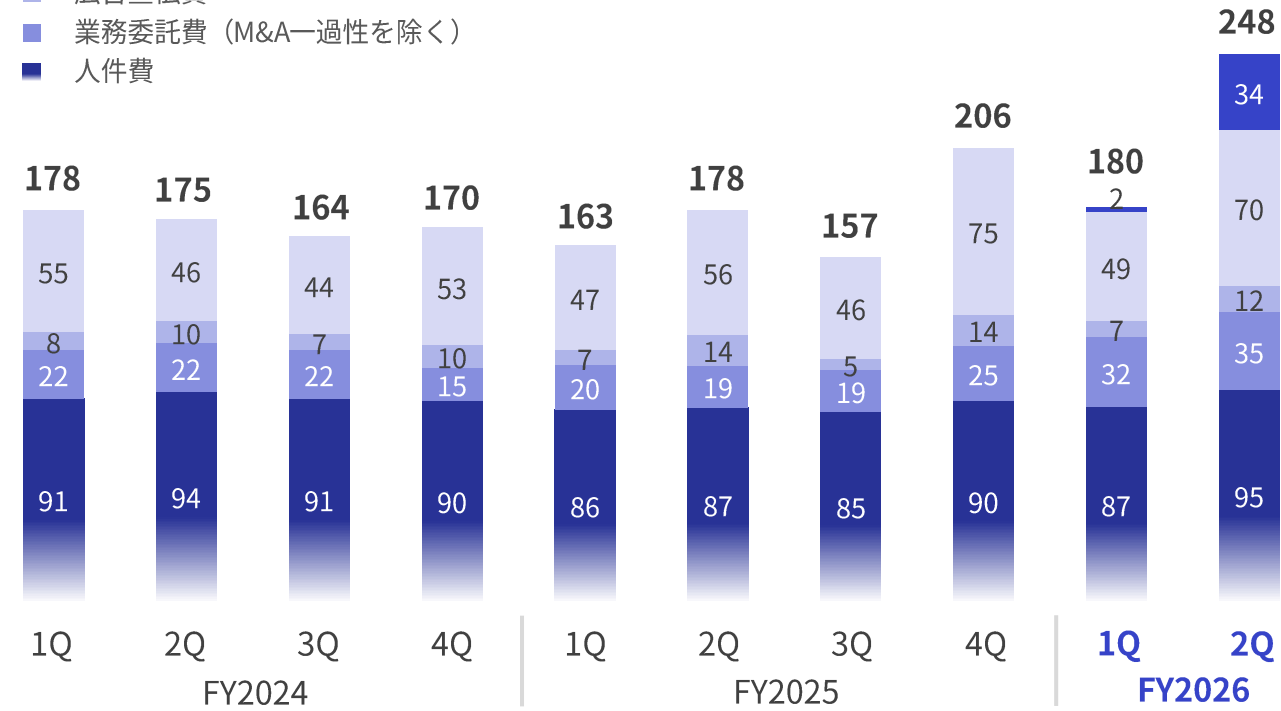
※ 前年同期は当社単体の実績（決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudのみなし取得日を2026年5月31日としているため、同社の損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。既存事業ベースの利益率はアドフラウド対策事業の売上を除いた数値を分母として算出。

FY26 2Q累計の販管費は428百万円（前年同期比 +86百万円）。うち37百万円はM&A・事業譲受に伴う一過性費用。
- 一過性費用を除く増加は+49百万円で、増収（+48百万円）とほぼ同水準。販管费率（一過性費用除き）は83.8%→85.8%

（金額単位：百万円）

上期累計の増減内訳（前年同期比）

- M&A一過性費用
- その他（研究開発費等含）
- 広告宣伝費
- 業務委託費（M&A一過性を除く）
- 人件費



上期累計の増減内訳（前年同期比）

区分	FY25 2Q累計	FY26 2Q累計	増減
人件費	174	182	+8
業務委託費	40	68	+28
広告宣伝費	22	20	▲1
その他（研究開発費等含）	104	119	+15
M&A一過性費用	0	37	+37
合計	341	428	+86

増加86百万円の内訳

M&A・事業譲受に伴う一過性費用	+37
その他（業務委託費・採用関係費など）	+49

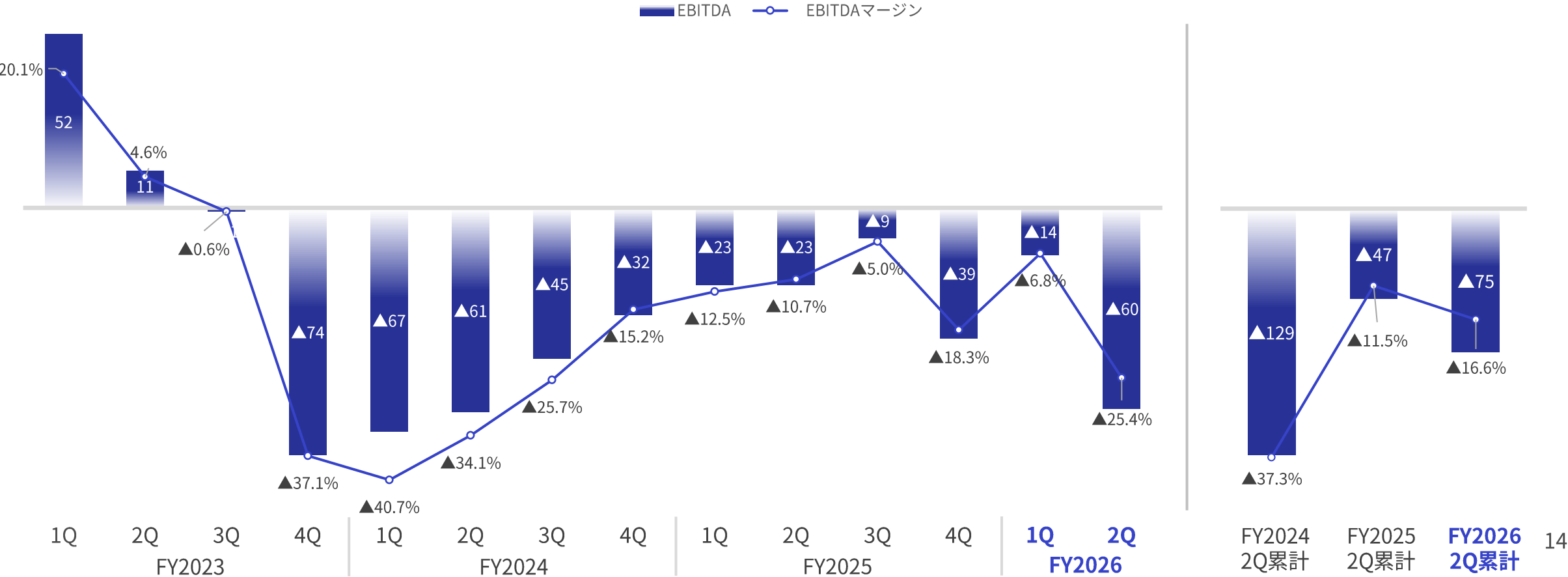
販管费率（一過性費用除き） **83.8% → 85.8%**
増加49百万円のうち業務委託費が+28百万円。開発・M&A対応に伴う外部リソース活用の増加。

※ 前年同期は非連結（単体）ベース。みなし取得日を2026年5月31日としているため、株式会社Anycloudの経営成績は含まれておりません（第3四半期より損益を連結予定）。決算短信では前年同期比を開示していないため、前年同期比は参考値です。
※ M&A・事業譲受に伴う一過性費用37百万円＝株式会社Anycloud株式取得関連費用28百万円＋X-log事業譲受関連費用等。金額は百万円未満切捨のため、内訳の合計と一致しない場合があります。

FY26 2Q累計EBITDAは▲75百万円、EBITDAマージンは▲16.6%（YoY ▲5.1pt）。

EBITDA推移

(金額単位：百万円)



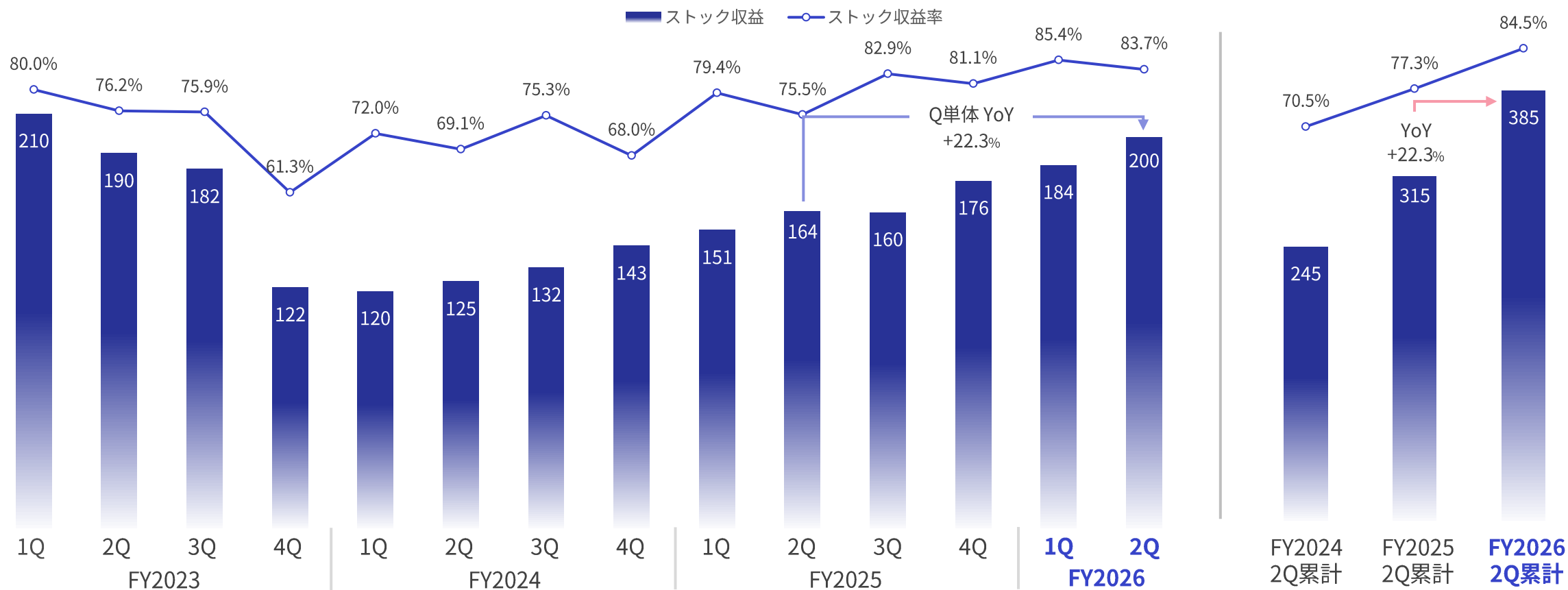
※1 当社は当第2四半期連結会計期間より中間連結財務諸表を作成（前年同期は当社単体の実績・参考比較）。株式会社Anycloudは貸借対照表のみ連結、損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

FY26 2Q累計不正検知サービスのストック収益は385百万円（YoY+22.3%）、ストック収益率は84.5%（YoY+7.2pt）で着地。

- O-PLUX Account Protection（不正ログイン対策）の導入数拡大による増収（+47百万円、寄与率68%）が主因。O-PLUX Payment Protection（+15百万円）、アドフラウド対策サービス（+6百万円）も寄与。

（金額単位：百万円）

「不正検知サービス」のストック収益の推移



※ストック収益＝不正検知サービスの定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」アドフラウド対策サービス「X-log」を含む）SaaS型BNPLシステム売上を除く。

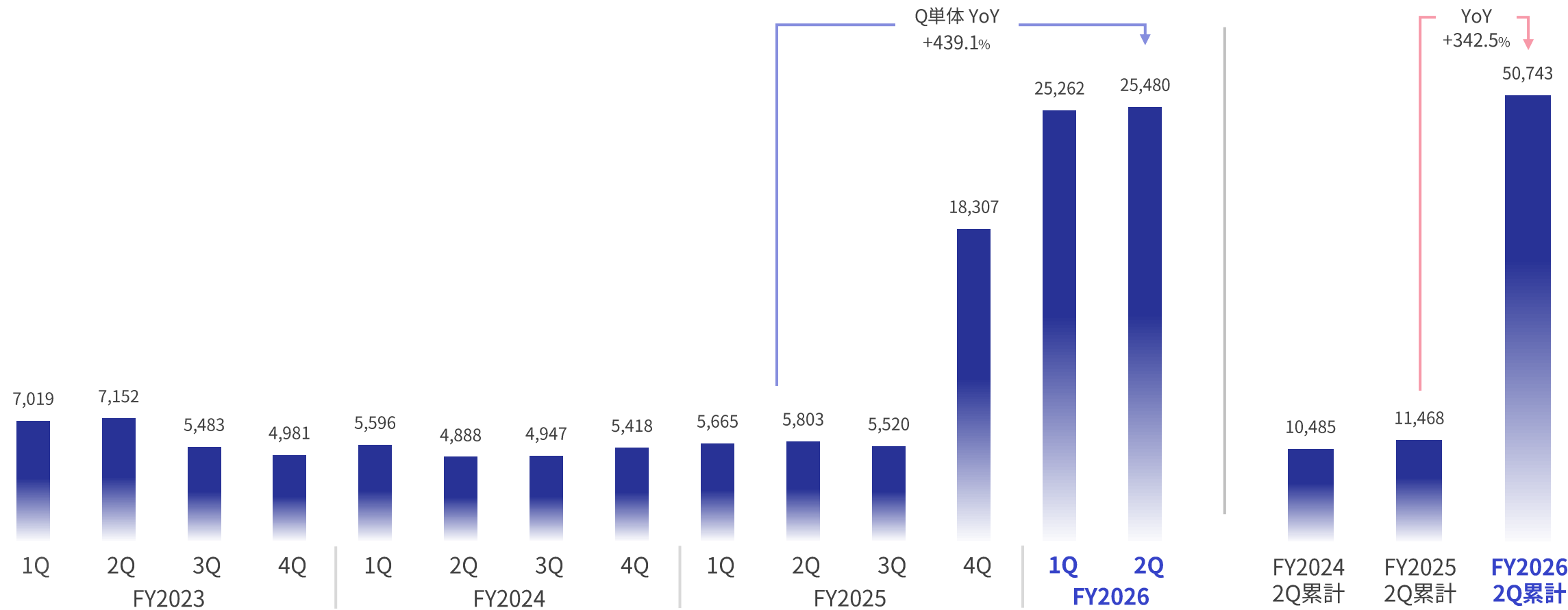
※ストック収益率＝ストック収益÷全体売上高 ※FY2026 2Qは連結ベース、FY2025 2Q以前は非連結（単体）ベース

© Cacco Inc.

不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」のFY26 2Q累計審査件数は、導入数増加によりYoY +342.5%と大きく増加。
- 不正ログイン対策の需要増により導入数が増加し審査件数が大幅に増加。

「O-PLUX Account Protection」の審査件数推移

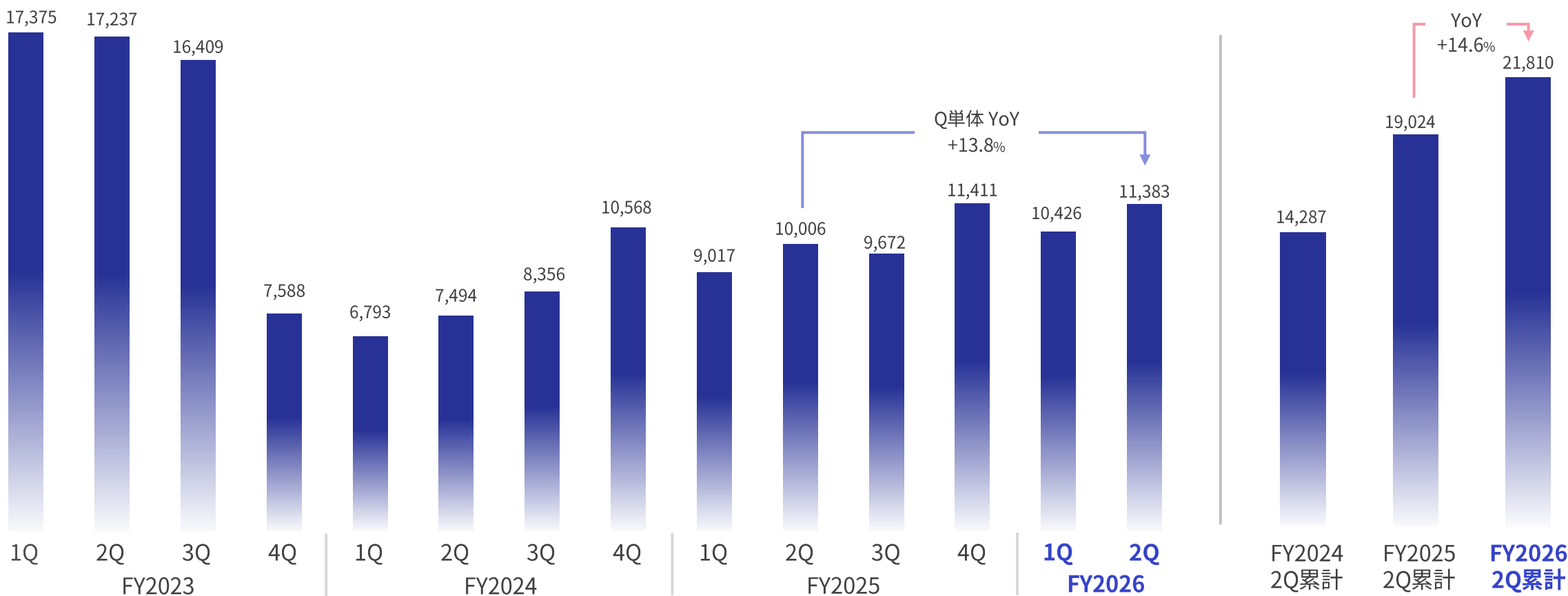
(審査件数単位：万件)



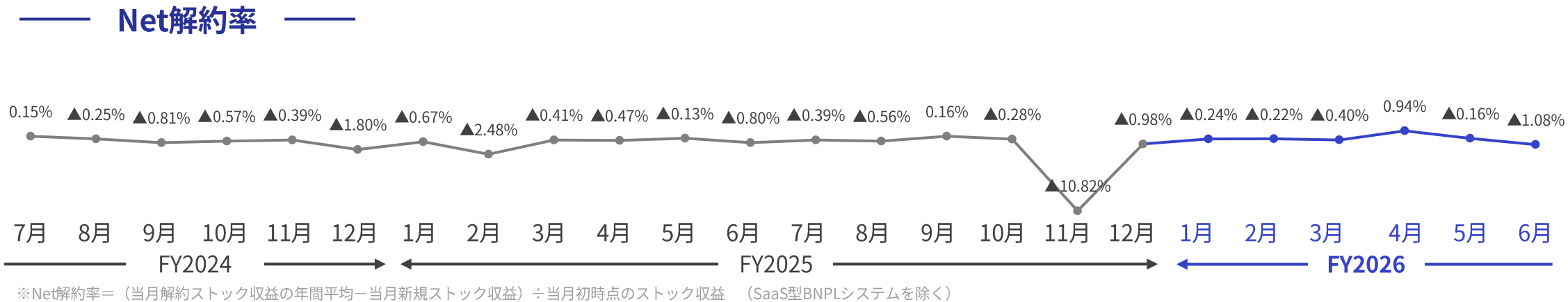
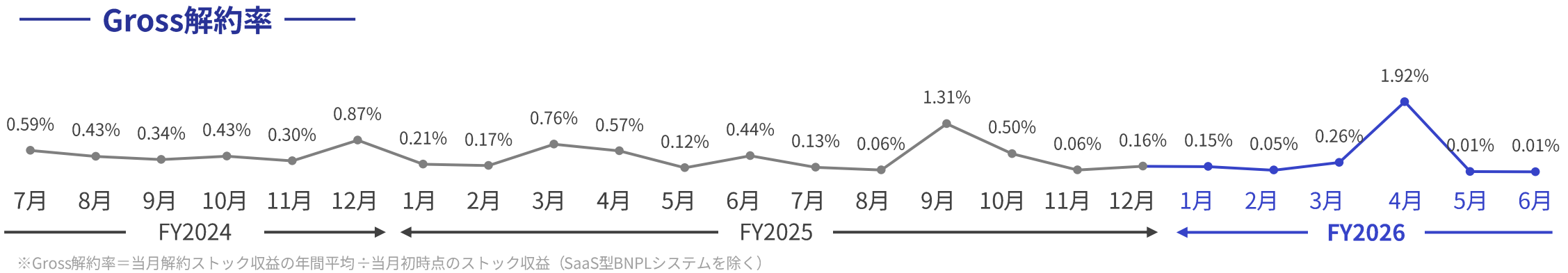
不正検知サービス「O-PLUX Payment Protection」のFY26 2Q累計審査件数は、YoY +14.6%と増加を継続。

「O-PLUX Payment Protection」の審査件数推移

(審査件数単位：千件)



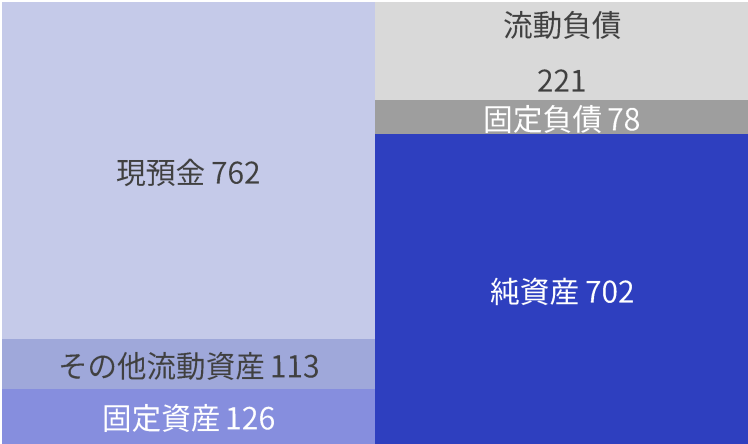
不正検知サービス「O-PLUX」のFY26 2Q累計平均月次解約率は0.40%（YoY +0.01pt）と引き続き低水準で推移。



2件のM&Aによりのれん171百万円を計上し固定資産が増加。取得資金として短期借入金247百万円を調達し流動負債が増加。純資産は中間純損失107百万円の計上により減少し、自己資本比率は70.1%→55.1%。中間純損失には、保有する投資有価証券の評価損14百万円（特別損失）を含む。財務制限条項※2に対しては十分な水準を維持。

(金額単位：百万円)

FY2025 4Q (非連結)



総資産 1,002百万円

自己資本比率：70.1%

FY2026 2Q (連結)



総資産 1,127百万円

自己資本比率：55.1%

主な変動要因

現金 ▲96

Anyccloud取得▲247・取得関連費用▲28・X-log譲受▲23／借入+247・Anyccloud現金取込+112

固定資産 +171

のれん計上+171 (Anyccloud 151・X-log 20)

流動負債 +215

短期借入金+247／1年内返済長期借入金▲39

純資産 ▲81

中間純損失▲107／
その他有価証券評価差額金等+25

※1 当社は当第2四半期連結会計期間より中間連結財務諸表を作成（前期末は当社単体・参考比較）。株式会社Anyccloudは貸借対照表のみ連結、損益は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

※2 借入金には財務上の特約が付されており、連結現金450百万円以上・連結純資産250百万円以上の維持等が定められている。

COXIO

2026年12月期 通期業績見通し

Forecast Financial Results of FY2026

(金額単位：百万円)

	FY2025 通期実績	FY2026 期初通期予想	FY2026 修正通期予想	YoY 増減
売上高	819	900	956	+16.7%
(不正検知サービス売上高)	685	801	846	+23.6%
営業利益	▲133	▲112	▲141	-
(営業利益率)	▲16.3%	▲12.5%	▲14.8%	-
経常利益	▲137	▲116	▲150	-
(経常利益率)	▲16.7%	▲13.0%	▲15.7%	-
当期純利益	▲137	▲117	▲164	-
EPS (円)	▲50.45	▲42.95	▲59.54	-

売上高 YoY +16.7%

主力の不正検知サービスが堅調に推移していることに加え、2026年4月1日付で譲り受けたアドフラウド対策サービス「X-log」の売上が寄与。2026年12月期の売上高は956百万円（YoY +16.7%、前回予想比 +56百万円）を見込む。

営業利益 ▲141百万円

営業利益は▲141百万円（前回予想比 ▲28百万円）。増収効果を、「X-log」事業の取得・統合に伴う一過性費用と、連結財務諸表の作成開始に伴う監査報酬等の増加が上回る。プロダクト開発力強化に向けた採用投資は継続。

当期純利益 ▲164百万円

当期純利益は▲164百万円。保有する投資有価証券の評価損14百万円を特別損失として計上。同評価損は現金支出を伴わず、キャッシュ・フローへの影響はない。

※ 株式会社Anycloudの取得関連費用は、個別財務諸表では関係会社株式の取得原価に算入するため、本個別業績予想には含まれておりません。連結業績予想には同費用およびのれん償却を織り込んでおります。

個別業績予想を修正（売上高は上方、利益は下方）し、株式会社Anycloudの子会社化に伴う連結業績予想を新たに公表。
売上高は個別956百万円・連結1,058百万円、営業利益は個別▲141百万円・連結▲182百万円の見込み

2026年12月期 通期業績予想（個別の修正・連結の新規公表）

（金額単位：百万円）	個別 前回予想 (A)	個別 今回予想 (B)	増減 (B-A)	連結 今回予想	(参考) FY2026 実績
売上高	900	956	+56	1,058	819
営業利益	▲112	▲141	▲28	▲182	▲133
経常利益	▲116	▲150	▲33	▲191	▲137
当期純利益 ※3	▲117	▲164	▲46	▲206	▲137
E P S (円)	▲42.95	▲59.54	—	▲74.72	▲50.45

個別と連結の差異

連結の営業損益▲182百万円は、個別▲141百万円に以下を加えたもの。

- Anycloud取得関連費用 ▲28百万円（個別では関係会社株式の取得原価に算入）
- のれん償却 ▲12百万円（151百万円÷7年×7か月）

修正の理由

- 売上高 +56百万円 … 「O-PLUX」が堅調に推移、「X-log」事業の譲受が寄与
- 販管費 +68百万円 … 「X-log」取得関連・統合費用、連結財務諸表の作成開始に伴う監査報酬等の増加
- 特別損失 14百万円 … 投資有価証券評価損（現金支出を伴わない）

※1 連結業績予想は、株式会社Anycloudのみなし取得日を2026年5月31日とし、2026年6月から12月までの7か月間の損益を取り込む前提。のれん151百万円は7年間の均等償却を前提としており、取得原価の配分が未完了のため今後変動する可能性があります。

※2 2026年12月期より連結財務諸表を作成するため、前回発表の連結業績予想および前連結会計年度の連結実績はありません。（参考）前期実績は個別業績です。

※3 連結は親会社株主に帰属する当期純利益。

M&Aの実行に伴う一過性費用および投資有価証券評価損を除いたベースでは、通期営業損益は▲76百万円と、当初計画（▲112百万円）を35百万円上回る見通し。これらは当期限りの費用であり、来期以降は発生しない。

M&Aに伴う一過性費用・投資有価証券評価損を除くと、営業損益は当初計画を上回る見通し

(金額単位：百万円)	通期計画 (A)	一過性要因を除く 見込業績 (B)	差異 (B-A)	(参考) 今回修正予想
売 上 高	900	935	+34	956
売 上 総 利 益	650	685	+34	—
販売費及び一般管理費	763	761	▲1	—
営 業 損 益	▲112	▲76	+35	▲141
経 常 損 益	▲116	▲82	+34	▲150
当 期 純 損 益	▲117	▲82	+35	▲164

除外した一過性要因（来期以降は発生しない）

- ・ M&Aの実行に伴う費用（仲介・アドバイザー報酬、DD費用、借入関連手数料等）
- ・ 投資有価証券評価損 14百万円（特別損失／現金支出を伴わない）
- ・ いずれも当期限りの費用であり、来期以降の損益には影響しない

※ のれん償却費およびアドフラウド対策事業の運営費用は来期以降も継続

※1 一過性要因＝M&Aの実行に伴う費用および投資有価証券評価損。のれん償却費（来期以降年約21百万円）およびアドフラウド対策事業の運営費用は来期以降も継続します。
※2 本ページは社内管理ベースの単体通期見込であり、開示している通期業績予想（個別）とは集計範囲が異なります。金額は百万円未満切捨のため内訳の合計と一致しない場合があります。

COXIO

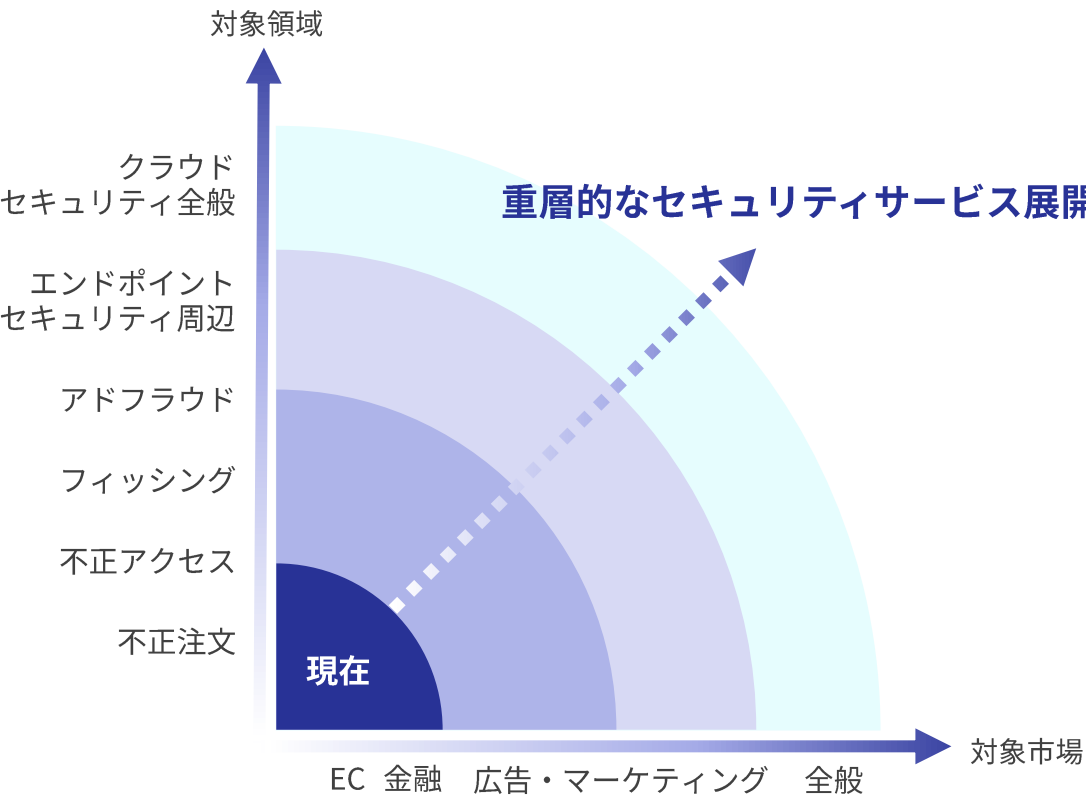
FY2026 成長戦略

FY2026 Growth Strategy

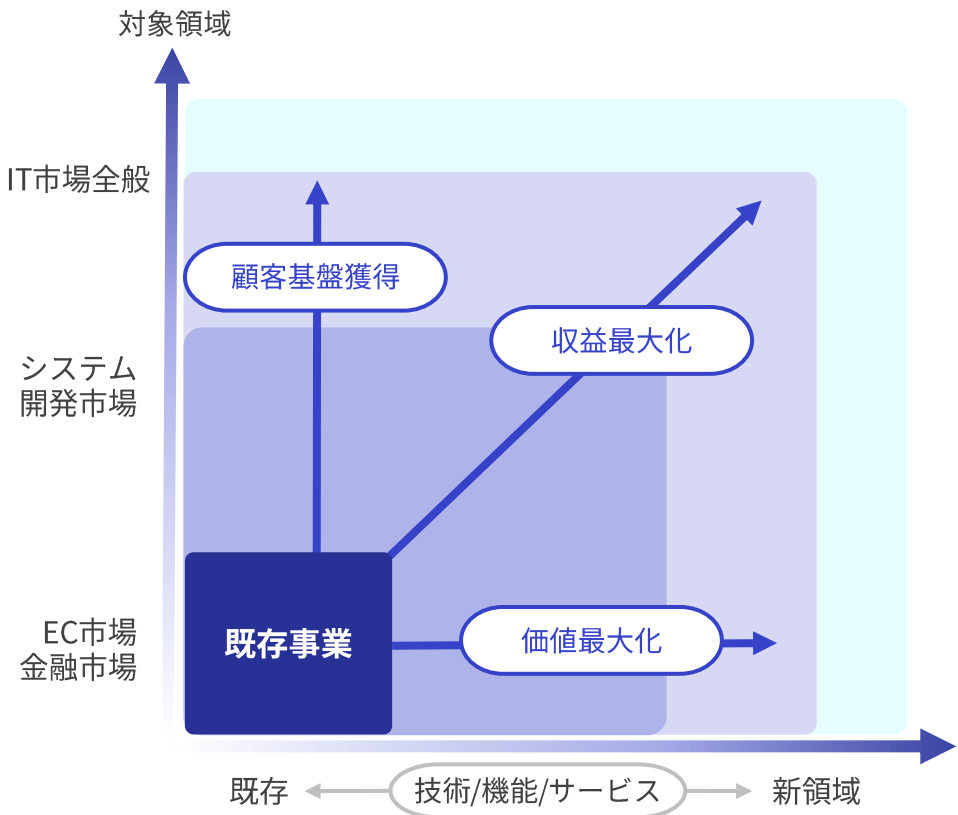


主力である不正検知サービスを基軸としてセキュリティ領域を拡大・深耕し、重層的なセキュリティサービスポートフォリオの構築を目指す。さらに、戦略的な業務提携やM&Aにより事業領域を拡張し、企業価値の最大化を追求していく。

セキュリティ領域拡大



業務提携・M&Aによる事業領域拡大



不正検知サービス領域において日本トップのサイバーセキュリティ企業として
信頼されるサービスを提供するために「価値向上」と「領域拡大」を続ける

1 ドメイン単位での市場開拓戦略の更なる推進

前期に引き続き、EC・金融・海外・新領域の各ドメインにおいて更なる拡大を推進。

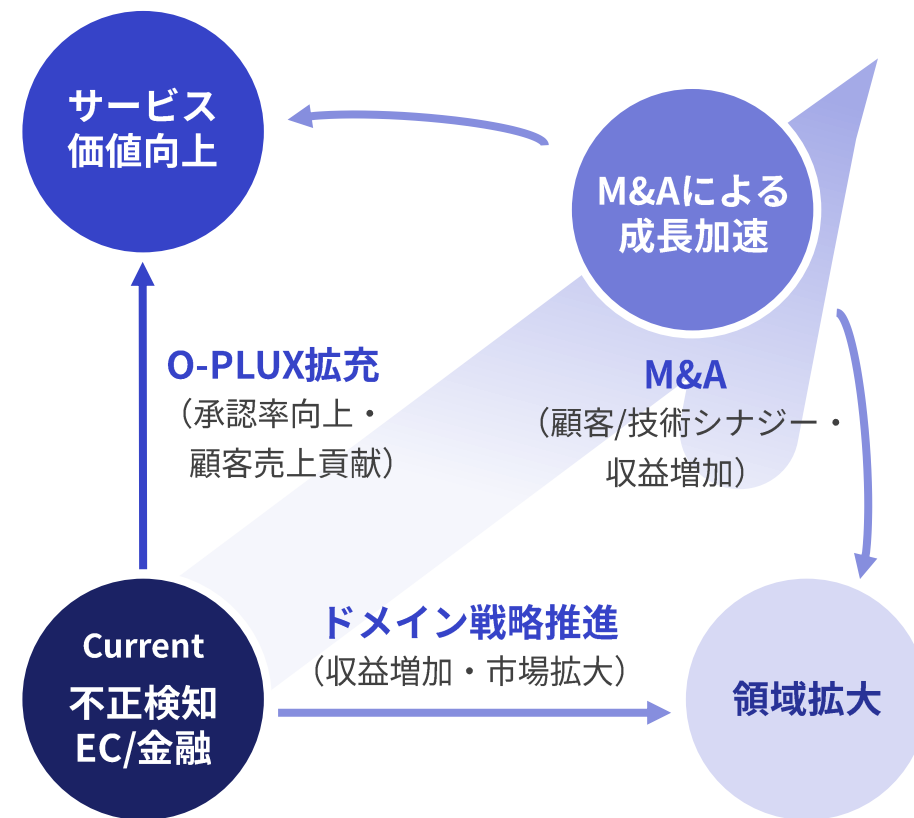
2 不正検知サービスの機能拡充・シェア拡大

クレジットカード決済承認率の向上とEMV-3Dセキュア※1運用パターンの最適化を軸に、競合差別化をはかるとともに、Shopifyアプリ等への対応も強化しサービス価値向上を追求。

金融機関との取引実績拡大によるリレーション深耕、新規導入拡大を推進。

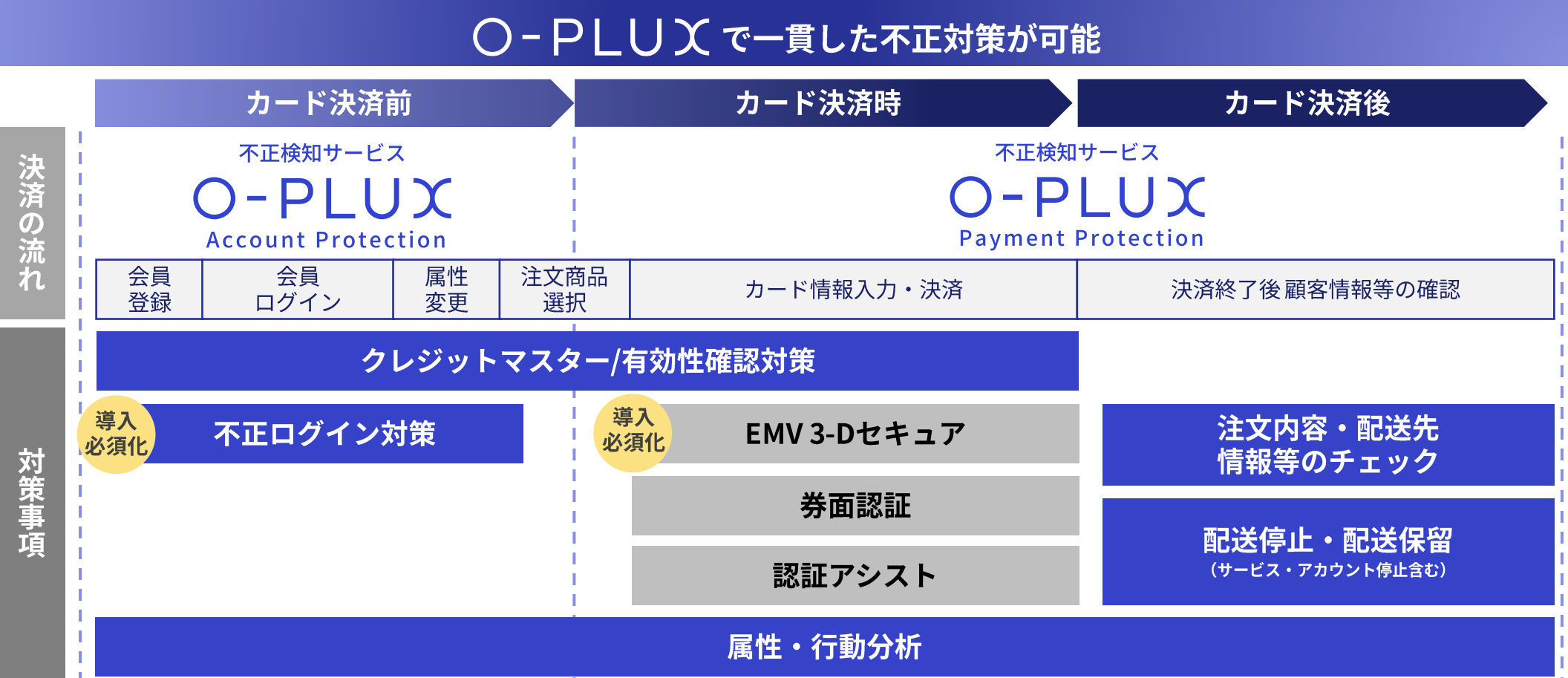
3 M&A・業務提携による成長加速

M&A・業務提携により新規事業領域・既存事業周辺技術を獲得し、成長を加速させる。



※1インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

2025年3月に発行された[クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】](#)※1において、EMV 3-Dセキュア※2の導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化されるなど、EC加盟店にとって、クレジットカード取引の流れを「線」として捉え、その線上の各タイミングにおいて適切な不正利用対策を講じることが重要となった。そうした「線の考え方」に基づく一貫した対策が可能なCaccoの不正検知サービスにとって良い市場環境になりつつある。



※1：クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジットカード取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会））2025年3月
※2：EMV 3-Dセキュア：インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

O-PLUS = O-PLUSで対応可能

前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進し、各ドメインにおいて当社サービスを拡大していく。

各ドメインのTAM※1



国内EC不正対策市場 約**240~360**億円※2



国内金融不正対策市場 約**720~960**億円※3



海外不正対策市場（日本除く） 約**4.3~7.4**兆円※4

不正検知サービス
O-PLUX
Account Protection

不正検知サービス
O-PLUX
Payment Protection

後払い決済導入パッケージ
SaaS-type BNPL system

プロダクト一気通貫のソリューション提供で
市場ドメイン毎にアプローチ

※1：TAM = (Total Addressable Market：獲得可能な最大市場規模)

※2：IMARC Group「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」（2024年）の予測値を基に、1ドル=150円で換算し、ECセグメント比率を仮定して当社が独自に推計。

※3：IMARC Group「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」、MarketsandMarkets「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」の市場データを基に、グローバル市場におけるBFSI（銀行・金融サービス・保険）セグメントの構成比率を適用し、当社が独自に推計。

※4：MarketsandMarkets「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」および Research and Markets「Fraud Detection and Prevention Global Market Report 2025」の予測値を基に推計。1ドル=150円で換算。

※不正対策=本資料における「不正対策」とは、不正検知・防止ソリューション（ルールベース・AI）、認証・本人確認（eKYC・3Dセキュア等）、および金融犯罪対策（AML/CFT）システムを指し、関連するシステム構築（SI）や運用保守等のサービス費用を含む。

不正被害の深刻化

クレジットカード不正利用被害は500億円規模で高止まりしており、EC事業者における対策ニーズは依然として高い水準に。



新たな課題「承認率低下」

不正利用対策レギュレーション強化※1によりセキュリティ強化（EMV 3-Dセキュア義務化）が進む一方で、不正被害の責任は「加盟店」から「カード会社」へ移行。これによりカード会社が審査基準を厳格化した結果、決済承認率が低下。

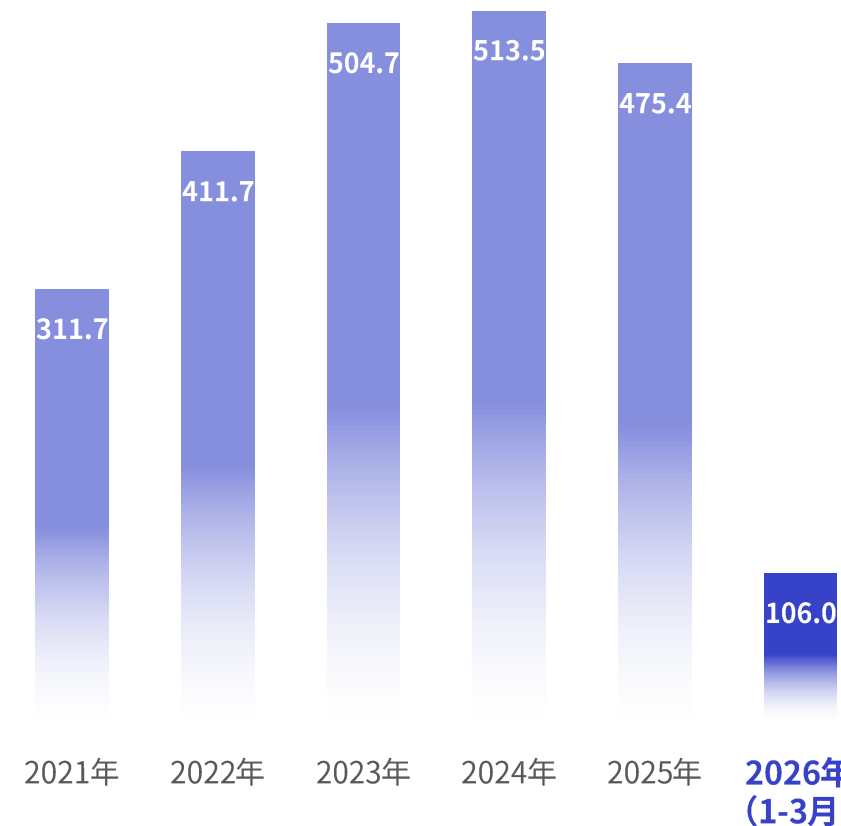


「カゴ落ち対応」のニーズ増加

真正なユーザーが本人認証の手間を嫌い、離脱してしまう「カゴ落ち」（＝EC事業者の販売機会損失）が課題化。「不正は止めたいが、売上は落としたくない」というEC事業者のニーズが高まっている。

クレジットカード不正被害額（番号登用）※2

（単位：億円）



※1：2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会））において、EMV 3-Dセキュアの導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化

※2：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」

EC領域

不正検知サービス

O-PLUX
Payment Protection

カード会社と連携し、承認率向上を起点とした
「O-PLUXの成長サイクル」でシェア拡大



カード会社と連携しO-PLUX全件審査を推進、不正
者取引がカード会社へ流れることを阻止



クレカ決済承認率の向上・カゴ落ち（誤検知）防止



顧客の売上最大化

機会利益を防ぎトップライン向上



O-PLUXニーズ増加

守りだけでなく、「売上増加のツールのひとつ」として認知



O-PLUXの顧客基盤（シェア）の拡大

競合優位性の確立と新規獲得推進、審査データ増加

循環



実現のためのアクション

・ EMV-3Dセキュア運用の最適化：

リスクベース認証の適用を支援。真正なユーザーの認証をスキップさせ、購買完了率を高める。

・ カード会社との連携：

カード会社と連携し、加盟店が「O-PLUX導入による承認率向上→売上増」を定量的に実感できる環境を構築。

・ 国内No.1の導入実績を活かした運用提案：

画一的なシステム提供ではなく、国内の不正傾向・商習慣に精通した当社独自の「きめ細やかで柔軟な運用チューニング」で承認率向上を実現する。

△ 大手ネット証券を中心に不正アクセス被害が発生

2025年初頭から大規模な不正アクセスが急増

被害総額: 2025年7月末までに約6,200億円、年間では約7,393億円。 ※1

被害件数: 不正アクセスを受けた口座は約1万5,000件、不正取引件数は累計9,752件。 ※1

🛡️ 手口の巧妙化による既存認証手段の限界

ダークウェブへ流出した160億件の認証情報を悪用したリスト型攻撃に加え、マルウェアを経由した「遠隔操作」や、AIが生成する高度なフィッシングにより、従来のID/PW認証は期待された役割を果たせなくなっている。

🔄 規制強化と業務負荷

金融庁による監督指針※2等により、内部管理態勢の整備および口座開設・ログイン・取引時におけるセキュリティの確保等が求められ※3対策業務負荷が増大している。

➡ **多要素認証※4 (MFA)必須化・不正アクセス検知必須化**

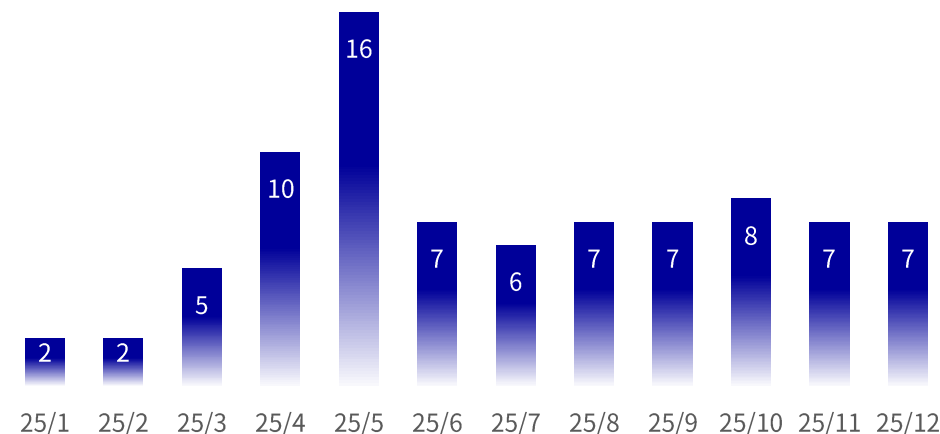
※1: 金融庁「インターネット取引サービスへの不正アクセス・不正取引の発生状況」2026年1月

※2: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月

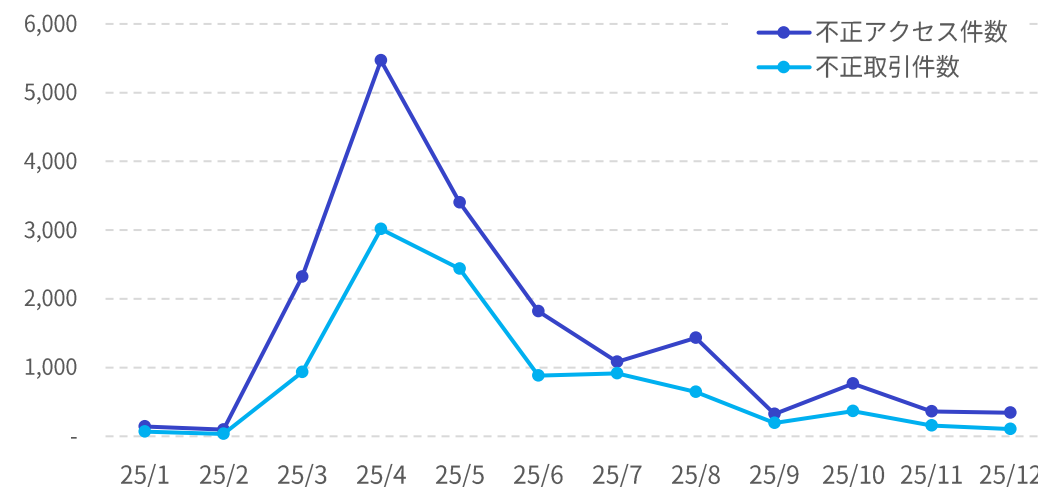
※3: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月 - (監督指針III-2-8-2-2)

※4: 多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) : 種類の異なる2つ以上の証拠を組み合わせて本人確認を行うセキュリティの仕組み

— 不正取引が発生した証券会社数推移※1 —



— 不正アクセス・不正取引件数推移※1 —





不正検知サービス

O-PLUS

最新の金融業界での不正手口に対応し、
金融機関のセキュリティ対策パートナーとしてシェア拡大を図る



金融特化の機能拡充

- 遠隔操作の検知
- 危険国からのアクセス検知
- 外部DB連携の拡充



一気通貫の対策訴求

口座開設審査 → ログイン → 取引
の入口から利用までをシームレス
に対策可能な体制構築を支援。



コンサルティング支援

- 内部管理態勢の構築支援
- 不正検知をはじめとしたデータサイエンス支援

2025年からの実績

2025年12月

業務提携

株式会社NTTデータ

EMV 3-Dセキュア領域で連携。国内主要カード会社が採用する本人認証基盤「ACS」に当社の不正検知技術を提供し、決済領域の不正検知を高度化。

2026年4月

事業譲受

アドフラウド対策サービス「X-log」

アドフラウド対策サービスを譲受。Web広告流入段階のアドフラウド対策領域へ参入し、新たな収益源を獲得。

2026年6月

完全子会社化

株式会社Anycloud

AI・アプリ開発体制と技術者を獲得。開発ロードマップの短縮と次世代プロダクト開発の基盤を構築。

継続的なソーシングにより、次の案件を検討

収益・技術・事業の3軸シナジー

収益拡大

M&Aにより新たな収益源を即座に獲得し、トップラインの非連続な成長をめざす。

該当案件：X-log / Anycloud

既存事業シナジー

獲得した事業領域の顧客基盤・商材を既存のEC・金融ドメインと相互にクロスセルし、収益基盤を拡張。

該当案件：X-log

技術シナジー

特定技術を時間をかけずに獲得・実装することで、開発ロードマップを短縮し、製品競争力を向上。

該当案件：Anycloud / X-log

M&Aと業務提携により、Web広告集客からログイン・決済までを一気通貫でカバーする不正対策体制を構築

獲得した事業・技術を既存ドメインへ展開し、非連続な成長を加速する

2026年6月17日付で株式会社Anycloudを完全子会社化



- 国内導入実績No.1の不正検知ノウハウ
- データサイエンスの専門性
- 累計12万サイト超の顧客基盤



Anycloud

- UXデザインを起点としたAI実装力
- FDE型エンジニア組織
- 設計から運用までの一気通貫体制



次世代セキュリティインフラの共創

既存プロダクトへのAI実装

主力サービスにAI技術を組み込み、提供価値を高める

UI/UXの継続的な改善

UXデザインの専門性を活かし、管理画面や顧客接点の使いやすさを向上

顧客ニーズに応じた開発の機動力

内製の開発リソースにより、要望に沿ったプロダクト開発を柔軟かつ迅速に実行

FDE (Forward Deployed Engineer)

顧客の現場に入り込み、課題の発見から設計・開発・運用までを一体で進める開発スタイル

取得対価247百万円。上期は取得関連費用のみを計上し、損益は第3四半期から連結※1

取得の全体像

取得対価	2026年6月17日 全株式取得
247百万円	
取得関連費用	仲介・アドバイザリー費用 連結で第2四半期に一括費用処理 ※2
28百万円	
のれん計上額	償却期間 7年
151百万円	
取得資金（短期借入）	財務制限条項：連結現預金450百万円以上／ 連結純資産250百万円以上
247百万円	

損益への反映タイミング

FY26 上期 ～第2四半期	FY26 下期 第3四半期～	FY27以降 2027年12月期～
みなし取得日 2026/5/31	損益を連結開始	通期でフル寄与
貸借対照表のみ連結	売上・利益が寄与開始	のれん償却 年21百万円
損益貢献 なし 費用のみ ▲28百万円	のれん償却 約12百万円	シナジー効果の発現

※1 株式会社Anycloudのみなし取得日を2026年5月31日としているため、当中間連結会計期間の連結損益計算書に同社の経営成績は含まれておりません（第3四半期より連結予定）。

※2 取得関連費用は、個別財務諸表では関係会社株式の取得原価に算入し、連結財務諸表では発生時に費用処理しております。このため単体の販売費及び一般管理費には計上されております。

※3 上記のうち将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づく見通しであり、実際の結果と異なる可能性があります。

	短期 ～2026年12月	中期 2027年1月～	中長期 2028年～
製品の高度化 検知精度と顧客体験	検証中 既存プロダクトへのAI実装 開発スピードとコストを同時に最適化 設計中 管理画面のUX改善 設計協働を開始	検証中 不正検知技術の高度化 「O-PLUX」へのAI技術活用により識別精度と顧客体験を向上 検証中 顧客向けレポーティングの高度化	新規プロダクトの構築 不正手口に先んじる次世代AIアルゴリズムと新サービスの開発
事業基盤の効率化 コストと生産性	検証中 AI開発の推進・内製化 社内基幹システムの内製化・コスト最適化の検証	整備中 顧客基盤の相互活用 両社顧客への相互送客によりグループ全体の売上成長を図る	FDEモデルの国内展開 国内で確立されていないモデルへの先行参入による事業機会
組織・人材の融合 採用力と技術力	実施中 採用力の強化 「Progate共同創業者×AI開発×不正検知」を活かしたAI人材の獲得 実施中 両社エンジニアによる技術交流	開始 AI活用ノウハウのグループ内展開・教育研修	

※ 上記発現時期の区分は説明上のものであり、いずれも検証・設計段階の取組で、成果および収益貢献の時期・規模を確約するものではありません。

COXIO

Appendix



Company profile

会社名	かっこ株式会社 (Cacco Inc.)
所在地	東京都港区元赤坂一丁目 5 番31号
設立	2011年1月28日
事業内容	SaaS型アルゴリズム提供事業 (不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、 データサイエンスサービス)
代表	代表取締役社長 岩井 裕之
上場市場	東京証券取引所グロース市場 (証券コード 4166)
特許	特許第6534255号・特許第6534256号 特許第6860156号・特許第7840545号
認証	ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 登録番号: IA120255 プライバシーマーク® 第10824248号

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」
をカタチに



Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという想いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでした。私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから現在まで、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

Caccoは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

広告集客からログイン、決済、データ活用まで、安全なネットインフラ構築をワンストップで支援

01 ADVERTISEMENT



Web広告・集客

X-log

AI・独自のアルゴリズムが広告不正クリック（アドフラウド）を解析し自動ブロック。アドフラウドによる広告費の無駄をリアルタイムで削減。

02 LOGIN CHECK



EC・金融機関・会員サイト

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

03 TRANSACTION



受注・決済システム

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。国内導入実績No.1※。

SaaS-type BNPL system

EC初期投資の掛からない後払い決済（BNPL※2）導入パッケージシステムを提供。

04 ANALYSIS



不正傾向・購買需要分析

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化技術を用いた高度なデータ解析。
不正傾向分析のほか、小売業の需要予測や生産計画最適化など、あらゆる分野にデータ分析サービスを提供。



SECURITY

不正検知

ストック収益

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

X-log

Web広告の不正クリック（アドフラウド）を検知し広告費の無駄を削減。



PAYMENT

決済コンサルティング

フロー収益

決済コンサルティングサービス

決済事業者やBNPL導入検討事業者へのシステム提供およびBNPL事業コンサルティングを実施。

※審査エンジンには「O-PLUX」を使用。

ストック収益

SaaS-type BNPL system

初期投資の掛からない後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供。ECショッピングカート・大手EC事業者などにも提供。



DATA SCIENCE

データサイエンス

ストック収益

フロー収益

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

- ・ 製造業の最適な生産計画作成
- ・ 小売業の需要予測
- ・ コールセンターの最適シフト作成

など、あらゆる分野にデータサイエンスサービスを提供。

83.6 %

不正検知サービスが
圧倒的な成長ドライバー。

当社の売上の8割以上を占めるのは、ストック型収益を基盤とする「不正検知サービス」。

安定した収益基盤の上に、データサイエンスや決済コンサルティングといった周辺領域が積み上がる構造となっている。

■ 不正検知サービス 83.6%

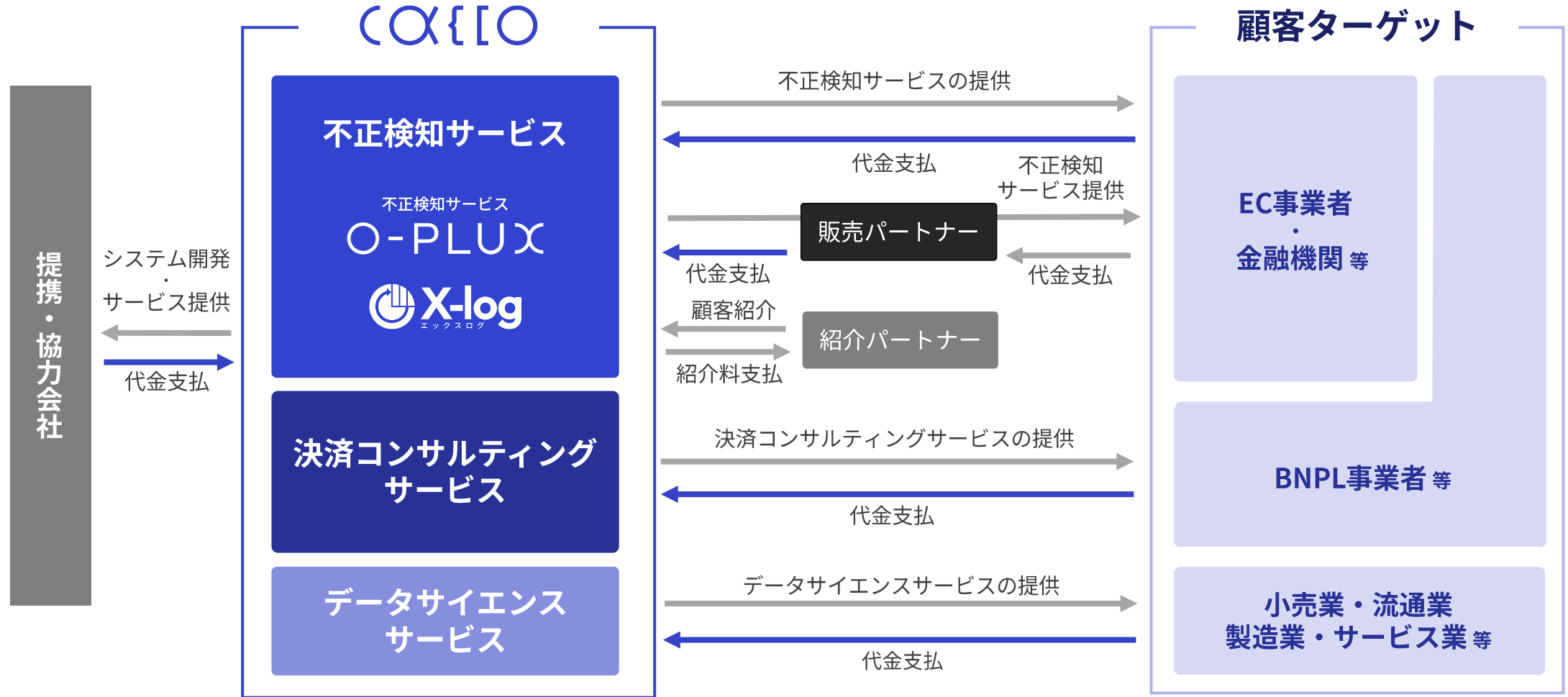
■ 決済コンサルティングサービス 6.2%

■ データサイエンスサービス 7.1%

■ その他 3.1%

※その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上





CLIENT

総合小売企業 様

年間流通額：約70億円

課題

ECサイトにおけるクレジットカードの不正利用が多発。
被害額は、**最大1,000万円/月**に達していた。

対策

不正検知サービス「O-PLUX」を導入。
リアルタイム検知による不正防止体制を構築。

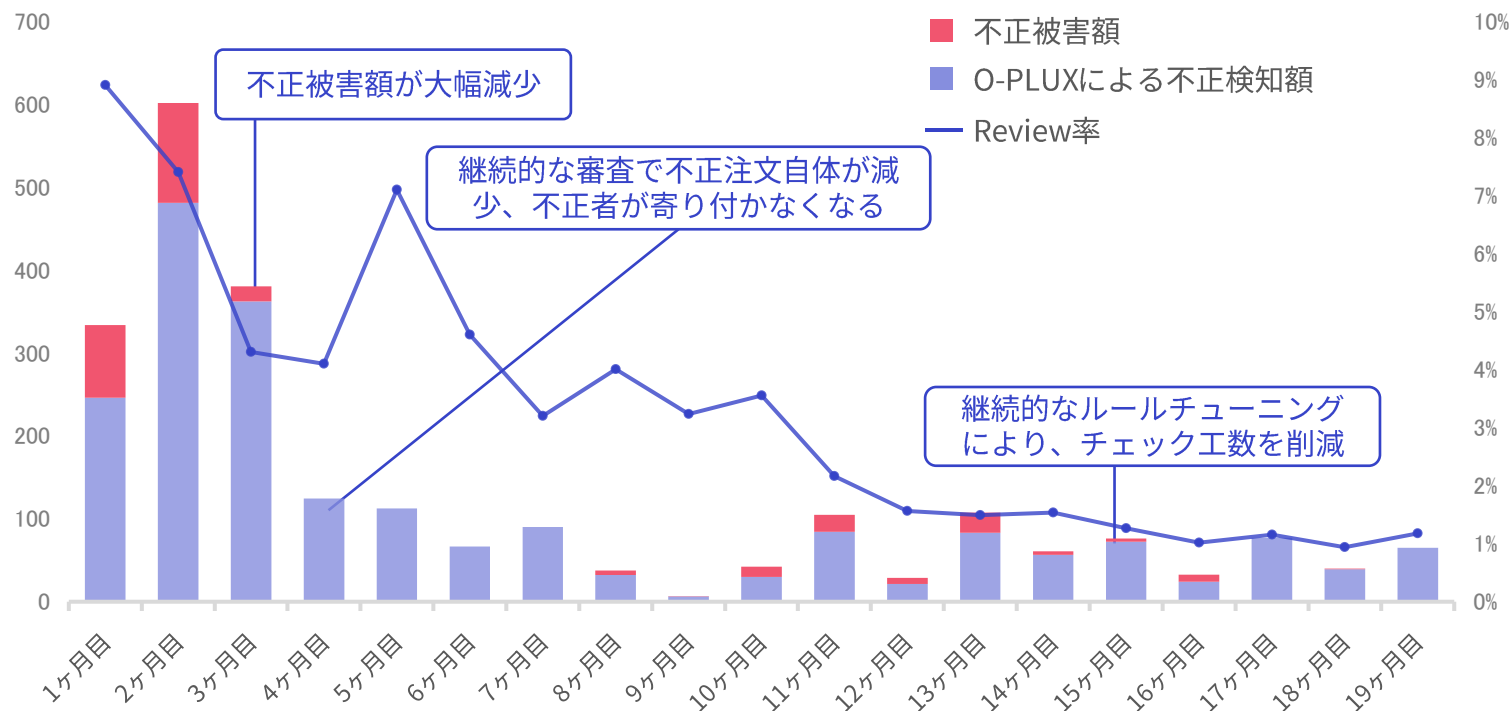
導入成果

2.5 億円 相当 (5年間累計)

導入初年度に1億円クレジットカード不正利用被害を未然に検知・防止

導入後の不正被害・検知額推移

(単位：万円)



成果のポイント

導入直後から不正被害額が激減。継続利用により、不正注文自体も沈静化、REVIEW（目視確認）率も低下し業務効率が向上。

※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額。
※Review率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合。

株式会社キタムラ

カメラのキタムラ／スタジオマリオ等

小売・EC

「O-PLUX」の導入で、目視チェックの限界を突破。
3Dセキュアとの併用で、より強固なセキュリティへ。



導入の背景・課題

3Dセキュア導入後も不正利用が継続、目視は限界に

3Dセキュアを導入していたものの、クレジットカード不正利用が依然として発生していた。
目視チェックで対策を行うも、手口の巧妙化により工数が限界に達していた。

導入前の状況

既存対策	3Dセキュア導入済み
残存課題	クレジットカード不正利用が継続
運用状況	目視チェックの工数が限界

導入効果・評価

OK判定取引の不正利用

0件

目視チェック工数削減

2名分

審査ルール

個社別

O-PLUXが評価された理由

- 3Dセキュアを補完
既存対策を置き換えず補完する形で審査ルールを構築。
- ローカライズ対応
キタムラ様向けに最適化した審査ルールで精度を確保。

3Dセキュアとの併用で目視チェックの課題を解消し、業務効率が劇的に向上

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://frauddetection.cacco.co.jp/o-plux/case_studies/kitamura/

株式会社ゲオストア

ゲオ公式通販「ゲオオンラインストア」

リユース・家電

先行導入した他事業で不正利用ゼロを確認し、公式通販サイトへ横展開。
クレジットカード不正利用と悪質転売を1つのサービスで対策。



導入の背景・課題

クレジットカード不正利用と悪質転売の同時対策が必要

換金性の高い商品を取り扱うため、クレジットカードのなりすまし注文に加え、不正転売・悪質転売への対策が課題となっていた。
1つのサービスでクレジットカード不正利用と転売を同時に対策できるサービスは少なく、被害内容や決済方法にかかわらず両方をカバーできる仕組みが求められていた。
先行して家電などのサブスクレンタル「あれこれレンタル」へO-PLUXを導入し、不正利用がゼロになる効果を確認していた。

導入前の状況

対策が必要な不正	なりすまし注文・不正転売
先行導入先	サブスク「あれこれレンタル」
課題	1サービスで両方に対応できるツールが少ない

導入効果・評価

先行導入事業の不正利用	対策範囲	チェック項目
ゼロ	不正利用＋転売	数百以上

先行導入の成果を踏まえた横展開

- 1サービスで両対応
決済方法を問わず不正利用と悪質転売の両方に対応。
- 多面的なチェック
数百以上の項目を複合チェックし手口の変化に追随。

他事業での成果を踏まえて横展開し、不正利用と悪質転売を一体で対策

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/geo-online

株式会社イープラス

チケット販売サイト「e+」

チケット販売

追加認証件数を当初想定の1/30に削減。
ユーザーの利便性と不正ログイン対策を両立。



導入の背景・課題

全件認証では利便性が低下、アクセス集中への耐性も必要

全件認証ではユーザーの利便性が低下する懸念があった。
また、人気公演の発売日など、急激なアクセス増大時でもシステムに影響が出ない対策が求められていた。

導入前の状況

認証方式の課題	全件認証は利便性が低下
負荷の想定	人気公演発売日のアクセス集中
求める要件	セキュリティと利便性の両立

導入効果・評価

追加認証の削減

1/30

導入後のクレーム

0件

アクセス集中時

影響なし

O-PLUXが評価された理由

- リスクベース認証
疑わしい取引のみを追加認証の対象とし利便性を維持。
- 高負荷への耐性
急激なアクセス増大時もトラブルなく安定稼働。

セキュリティを強化しつつ、追加認証を当初想定の1/30に抑制

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://frauddetection.cacco.co.jp/case_studies/eplus

ぴあ株式会社

チケット販売サイト「チケットぴあ」

チケット販売

リスクベース認証により、疑いのあるユーザーのみ追加認証。
幅広い年齢層の利便性を損なわず、なりすましログインを根絶。



導入の背景・課題

機械的な攻撃と幅広い年齢層への配慮の両立

短期間のアクセス集中時に、機械的ななりすましログイン攻撃が発生していた。
一方でユーザーの年齢層が幅広いため、認証の複雑化による利便性低下は避けたいという制約があった。

導入前の状況

発生していた攻撃	機械的ななりすましログイン
発生タイミング	短期間のアクセス集中時
制約条件	幅広い年齢層の利便性を維持

導入効果・評価

なりすましログイン

0件

追加認証の対象

疑わしい
場合のみ

真正ユーザー

利便性維持

O-PLUXが評価された理由

- 機械的アクセスの検知
O-PLUXで機械的なアクセスを検知しログイン前に遮断。
- 段階的な認証設計
OK・Review・NGの3段階で必要な取引のみ追加認証。

リスクベース認証により、利便性を維持したままなりすましログインを根絶

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/t-pia-after-introduction

大手金融機関

会員向けサイト

金融

ログの可視化により、モニタリング工数を大幅削減。
端末特定技術で、IPアドレスに依存しない高度な対策を実現。

導入の背景・課題

ログは記録するも可視化されず、手動監視に膨大な工数

ログの記録はしていたが可視化されておらず、手動モニタリングに膨大な工数が発生していた。
IPアドレスのみの制御では限界があり、精度の高いネガティブリストの管理が必要だった。

導入前の状況

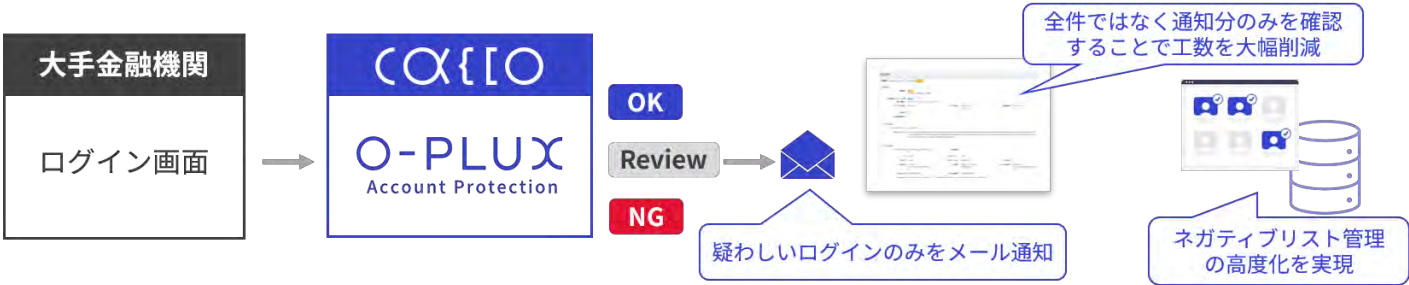
ログの状態	記録はあるが可視化されず
監視方法	手動モニタリングで膨大な工数
制御の限界	IPアドレスのみでは精度不足

導入効果・評価

モニタリング工数 大幅削減	ネガティブリスト 管理の高度化	確認対象 通知分のみ
-------------------------	---------------------------	----------------------

O-PLUXが評価された理由

- アクセスの可視化
ユーザー毎のアクセスデータを可視化し疑わしい動きのみ通知。
- 端末特定技術
IPアドレスだけでなく端末特定情報を含めた管理を実現。



疑わしいログインのみを通知する運用で、監視工数と検知精度を同時に改善

株式会社LIXIL

公式通販サイト「LIXILストア」

住宅設備

トライアルで**97%**のブロック率を記録。検討開始から1ヶ月足らずで本導入し、月間数百万円規模の被害抑制と運用負荷ゼロを両立。



導入の背景・課題

サイト統合以降、3Dセキュアをすり抜ける不正が急増

2023年に複数サイトを統合して以降、クレジットカードの不正利用が急増。手口は本人認証サービス「3Dセキュア」をすり抜けるほど巧妙で、被害額は月間数百万円規模に達していた。

狙われたのは浄水カートリッジ・高機能シャワーヘッド・窓拭きロボット「HOBOT」など換金性の高い商品。担当者は毎日30分超を目視チェックに費やし、出荷停止や商品回収の対応にも追われ、本来注力すべきカスタマーサービス業務を圧迫していた。

導入前の状況

被害額	月間数百万円規模
目視チェック	毎日30分超
狙われた商品	浄水カートリッジ・シャワーヘッド等

導入効果・評価

トライアル時のブロック率	検討開始から本導入まで	システム開発
97%	1ヶ月未満	不要

O-PLUXを選定した理由

- 確実な検知精度
実注文データのトライアルで97%のブロック率を記録。
- 根拠の透明性
ブロック理由が明確で、運用の納得感が得られた。

換金性の高い商品を狙う巧妙な不正手口に対し、検知精度と導入スピードを両立

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/lixil

株式会社パルコ

公式通販サイト「ONLINE PARCO」

モール型EC

EMV 3-Dセキュアを補完し、購入者と出店テナントの双方を保護。
多様なジャンルを扱うモール型ECのモニタリング負荷を軽減。



導入の背景・課題

幅広いジャンルを扱うモール型ECならではの監視負荷

「ONLINE PARCO」は、ショッピングセンターPARCOに出店する多様なブランドのテナントや、アート・カルチャー・エンターテインメント関連ショップが集まるモール型ECサイト。

ファッション・雑貨・食品・エンタメグッズ・アート・チケット等、幅広いジャンルを取り扱うため注文状況に対するモニタリングが煩雑だった。EMV 3-Dセキュア等の対策は既に導入済みだったが、不正手口の巧妙化が進むなか、購入者とブランド双方の保護の観点でさらなる強化が必要だった。

導入前の状況

サイト形態	モール型EC
取扱ジャンル	ファッション・雑貨・食品・アート等
既存対策	EMV 3-Dセキュア等を導入済み

導入効果・評価

既存対策との関係

補完

守る対象

購入者＋テナント

取扱ジャンル

多岐

入念な比較検討を経てO-PLUXを選定

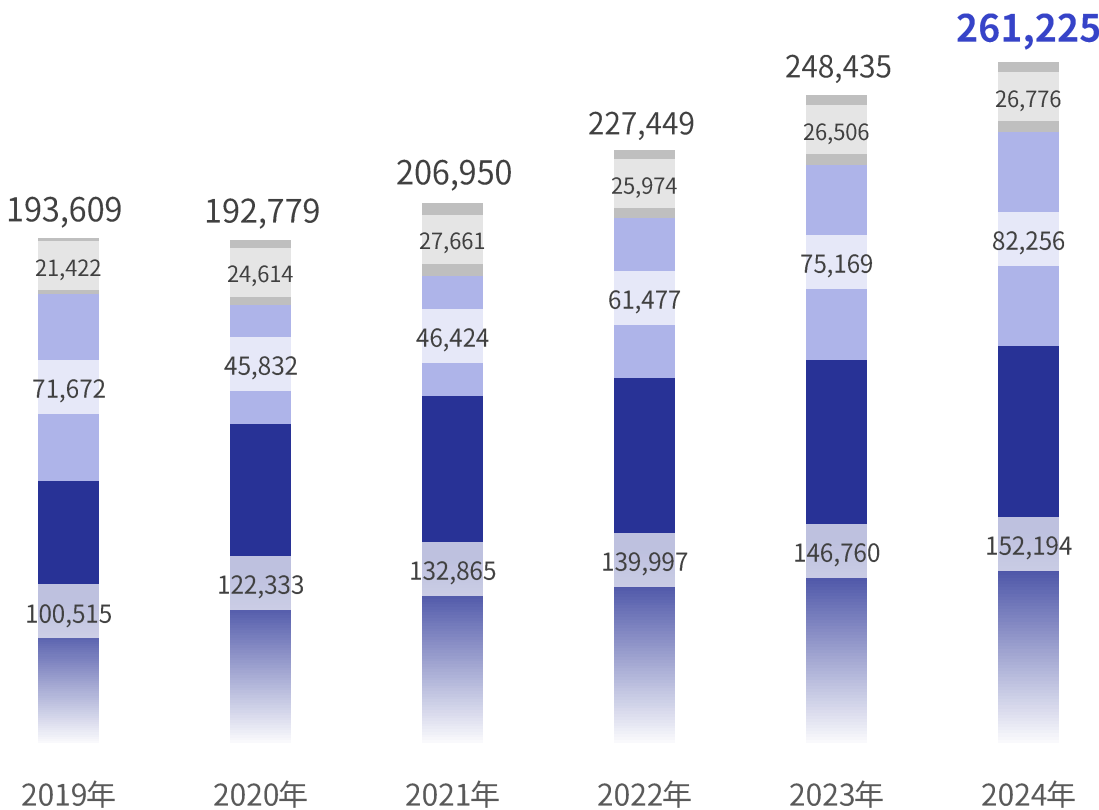
- 総合評価で選定
有効性・検知精度・運用支援・コストを総合的に判断。
- 独自DBと機械学習
加盟店単独では得られない独自DBで高精度な検知。

EMV 3-Dセキュアを補完し、モール型ECの多様な商材に応じた不正対策を実現

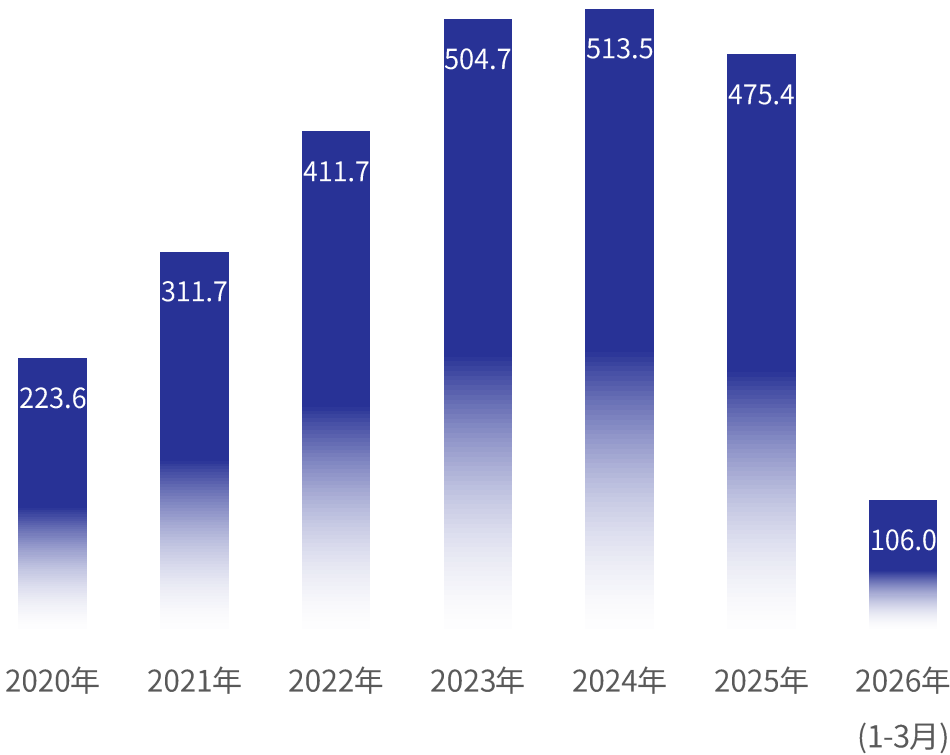
※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/parco

EC市場の成長に比例してクレジットカードの不正被害（番号盗用被害）が拡大。
- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

日本のBtoC-EC市場規模
(金額単位：億円)



日本のクレカ不正被害額（番号盗用）
(金額単位：億円)



※ 経済産業省「令和6年度産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」



TECHNOLOGY

データサイエンスノウハウ



セキュリティ技術力

高度なデータ解析技術と、セキュリティ領域における専門的なエンジニアリング力を融合。他社にはない独自のアルゴリズム開発を実現。

取得特許

特許第6534255号
特許第6534256号
特許第6860156号
特許第7840545号

01



TRACK RECORD

EC領域とペイメント領域における当社 サービス導入数 国内No.1の実績

EC領域およびペイメント領域において、圧倒的な導入シェアを獲得。豊富な運用実績が、さらなる検知精度の向上という好循環を生み出す。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入
サイト件数調査」2026年6月末日時点

02



STOCK REVENUE

不正検知サービスの 堅調なストック収益

メインサービスである不正検知サービスは、継続的なストック収益モデル。安定した収益基盤が、全社の成長を牽引している。

ストック収益比率：79.7%

(FY25 通期売上高に占める不正検知サービスのストック収益の割合)

03

製品における差別化要因

01 大量のデータ保有

国内不正注文データを大量に保有。

導入数国内No.1の実績が支える、圧倒的なデータカバレッジによる高い検知精度。

02 独自モデルの構築

データサイエンスとセキュリティの技術・ノウハウを融合。

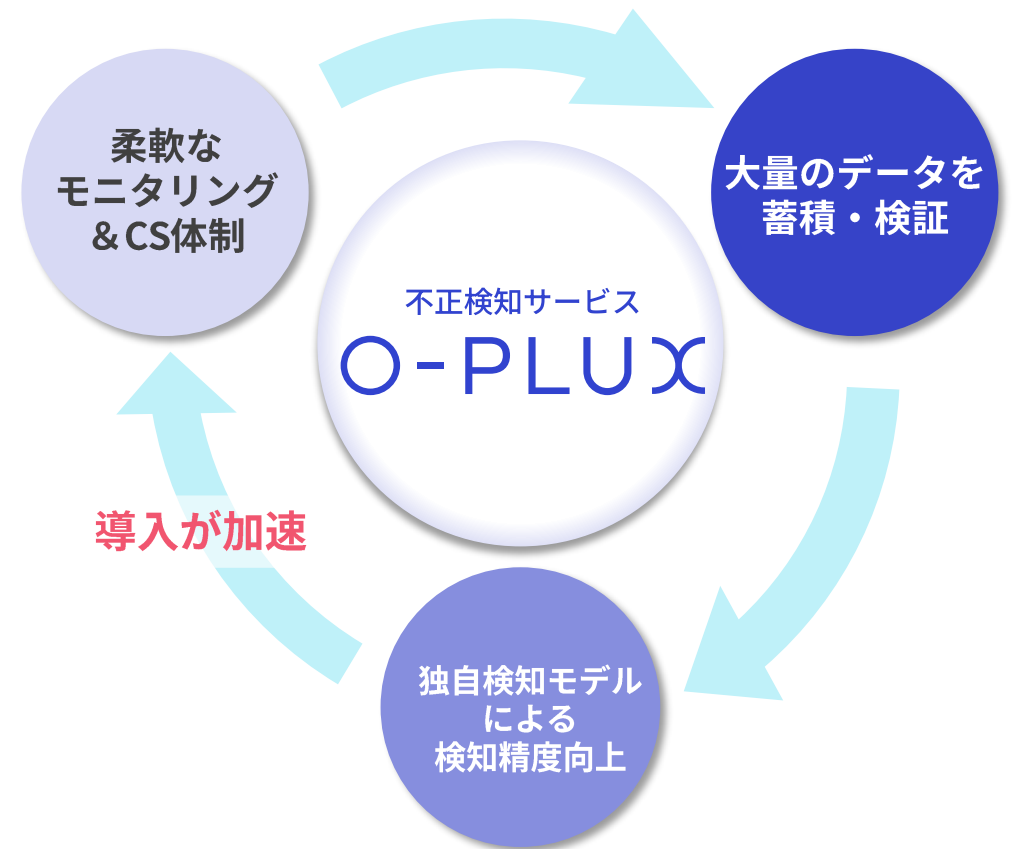
日本特有の商習慣や不正手口に対応した独自の検知モデルを構築。

03 充実のサポート体制

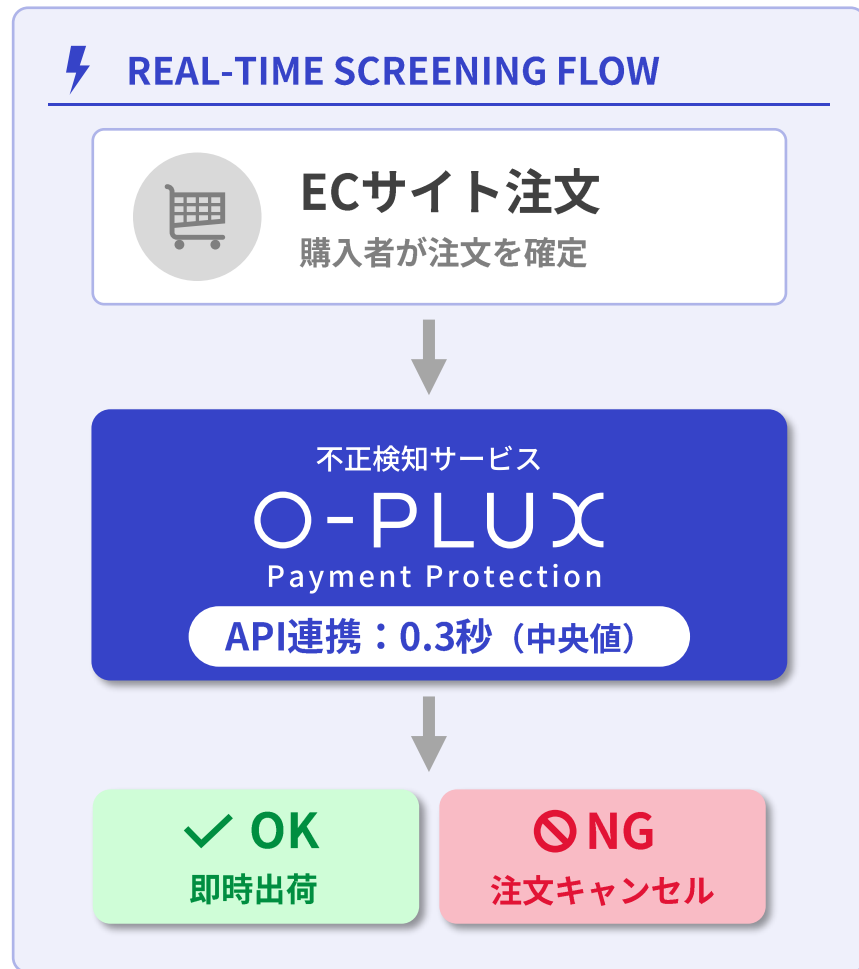
国内自社製品ならではのスピード感&柔軟性でサポート。

導入後も専任チームがルールチューニングや運用を柔軟にサポート。

競争優位性が維持される好循環サイクル



ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知



主な審査機能 (AIを活用した多角的な判定ロジック)



コスメ・ヘアケア



ホビー



PC / タブレット



食品 / 健康食品



住まい / インテリア



ペット用品



カメラ/音響機器



アパレル / スポーツ / アイウェア / 貴金属



ネットスーパー/テレビショッピング/ふるさと納税/MVNO/ホスティング 他



ECカートシステム 他



カード会社・決済代行会社

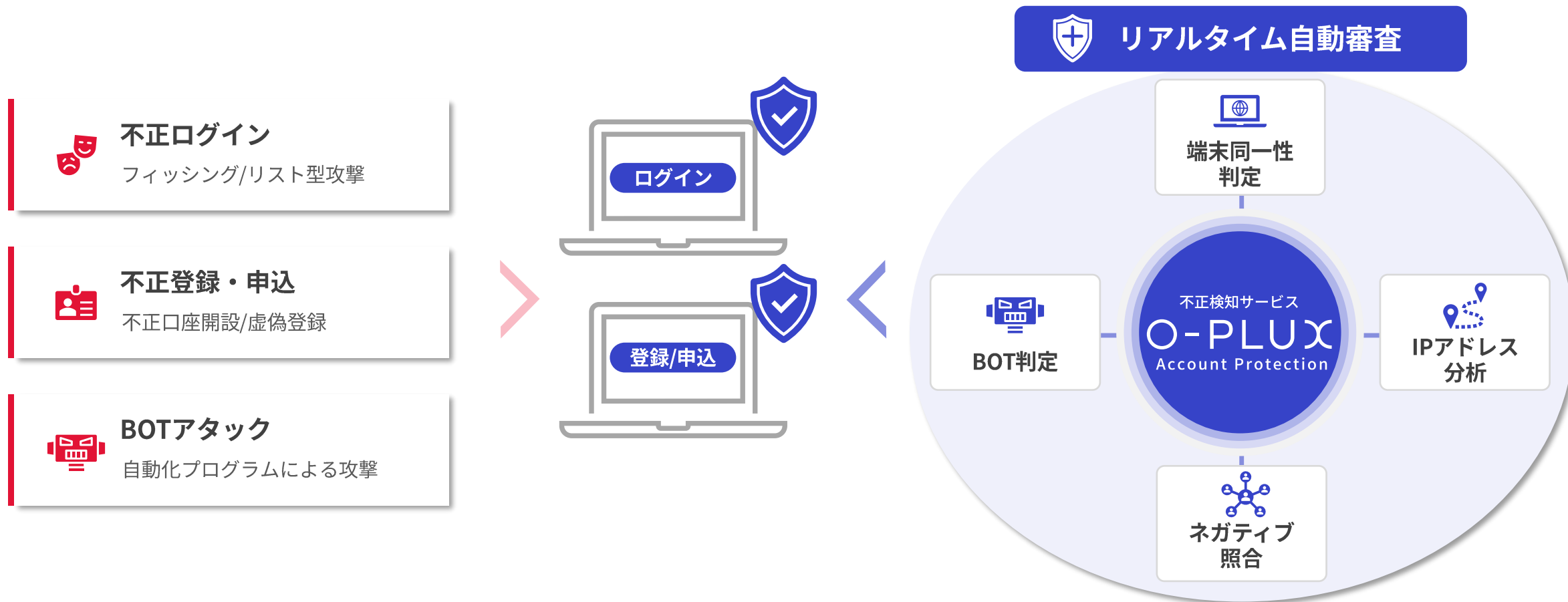


※サブスクストアとたまごリピートはTAG連携にて標準実装をしています。

※2026年7月末日時点。

※各カートシステムとの標準実装をご利用いただく際、別途開発費が発生する場合がありますので、各システム会社にご確認をお願い致します。

WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。
他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。



不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」導入企業

チケットサイト、金融機関や各種ポイントサイト・会員サイト等、高度なセキュリティが求められる業界での導入が進捗。

ECサイト

ORBIS

通信販売

Q QVC

※稼働準備中

チケットサイト

e+ イープラス
チケットぴあ

会員サイト


共立製菓
動物と人の進む道を創る

ECカート/パッケージ

 futureshop

消費者金融

ベルーナノティス

不動産クラウド
ファンディング

creal
クリアル株式会社

その他社名非公開
導入企業

 銀行
 証券会社
 金融グループ信販会社等

※ 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 2026年7月末日時点

連携完了後は、検知から対策まで全自動。広告運用者の工数を増やさず広告効果を改善。

検知対象 (広告主の脅威)

X-log解析エンジン

自動対策アクション



付加機能



企業分析機能

固定IPから流入企業を特定 → 競合除外 / 営業リスト化



媒体への返金請求支援

解析データを抽出 → 媒体サポートへ調査依頼 → 返金

導入は3ステップで完了



STEP 01

解析タグ挿入



STEP 02

API連携



STEP 03

X-log設定

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。
審査エンジンは不正検知サービス「O-PLUX」を提供。

》》 ONE-STOP-SUPPORT



BNPL事業検討・構築



決済システム開発



運用サポート



審査エンジン提供「O-PLUX」

》》 3つの強み

01

POINT

複数のBNPL事業の立ち上げ・開発実績

- ・ 月間取引数百万件規模の決済システム構築実績
- ・ 事業計画、各種要件定義などの立ち上げサポート
- ・ 事業開始後の運用構築（与信など）までカバー

02

POINT

BNPL運用経験者による専門コンサルティング

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。システムだけでなくビジネス面も強力にバックアップ。

03

POINT

国内導入数No.1の「O-PLUX」による不正検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、経営に資する数値を最適化するアルゴリズムを開発・提供。

Our Approach



KPI算出

データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、提案までを実施。



データサイエンス分室

自社の一部門の様に、データ分析サービスを月額契約で活用可能。多様な分析ニーズに対応可能。



アルゴリズム開発

経験値に頼らない最適化、自動処理による生産性向上。需要/リスク予測など、利益拡大を追求する専用アルゴリズムを開発。

Case Studies

年商1,190億円の壁材メーカー

最適化

1700製品・12生産レーンにおける複雑な生産計画を自動作成。
生産量の最大化とロス最小化を両立。

 **1.3億円**

年間コスト削減（最大）

年商55億円の文具メーカー

統計・AI

カレンダー・手帳等の需要予測と生産指示アルゴリズムを開発。
欠品による機会損失を最小化。

 **70%**

販売機会損失削減

コールセンター

最適化

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。

 **0.6億円**

年間コスト削減

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。



CONTACT INFORMATION



ir@cacco.co.jp



<https://cacco.co.jp/ir/>

お問合せ・個別取材のお申込みは、上記よりIR担当までご連絡ください。

CX{[O

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに